

令和 4 年度実施

**西条市の学校規模適正化に関するアンケート調査
報告書（中学 3 年生保護者向け調査）**

令和 5 年 1 月

経営戦略部政策企画課

教育委員会事務局教育総務課

目 次

1	本調査の概要	1
2	基本情報	2
	（1）性別	2
	（2）年齢	2
	（3）お住まいの地区	3
	（4）子どもの性別	3
3	市内中学校の学校規模について	4
	（1）市内中学校の学校規模について	4
	（2）20年前と現在の子どもの数について	6
4	小規模校の良さと課題について	8
	（1）小規模校の良さ	8
	（2）小規模校の課題	11
5	学級数と生徒数について	14
	（1）1学年あたりで適切だと思う学級数	14
	（2）1学級あたりで適切だと思う生徒数	14
6	学校規模適正化に係る学校再編について	15
	（1）将来的に中学校の再編をどのようにしていくべきか	15
	（2）中学校の学校再編を進める場合に配慮が必要な点	20
	（3）中学校の学校再編を進める場合の通学に関して配慮が必要な点	23
7	参考資料（アンケート用紙）	29

1 本調査の概要

（１）調査の目的

本調査は、令和２年度に実施した「西条市の教育に関するアンケート調査」結果において、将来的な子どもたちの教育環境の充実を図るためには一定程度の児童・生徒数、学級数が必要であるとの回答が多い傾向がみられたことから、西条市の次代を担う子どもたちの将来的な学校教育環境の最適化を図ることを目的として実施しました。

（２）調査の方法と実施時期

この調査は、市内 10 の市立中学校に 3 年生生徒が在学中である保護者の方を対象に実施しました。具体的には、令和 4 年 9 月 12 日に各中学校に調査票を配布し、各中学校から生徒 1 名につき 1 通の調査票を保護者宛に配布した上で、9 月 29 日までに生徒を通じて再び担任の先生へ調査票を提出いただく方法を採用しました。

（３）調査票の回収状況

本調査はすべての対象者に調査票を配布する全数調査の方式を採用しています。

令和 4 年 5 月 1 日現在の本市における中学 3 年生生徒は 898 名であり、欠席や転校を理由に若干の差異が生じている可能性が否定できませんが、仮に対象者数を 898 名とします。そのうち、回収した調査票は 788 通、最終回収率は概算で 87.8%となったことから、本調査の信頼度は極めて高いということが言えます。

（４）調査票の内容

送付した調査票は文末に掲載しています。

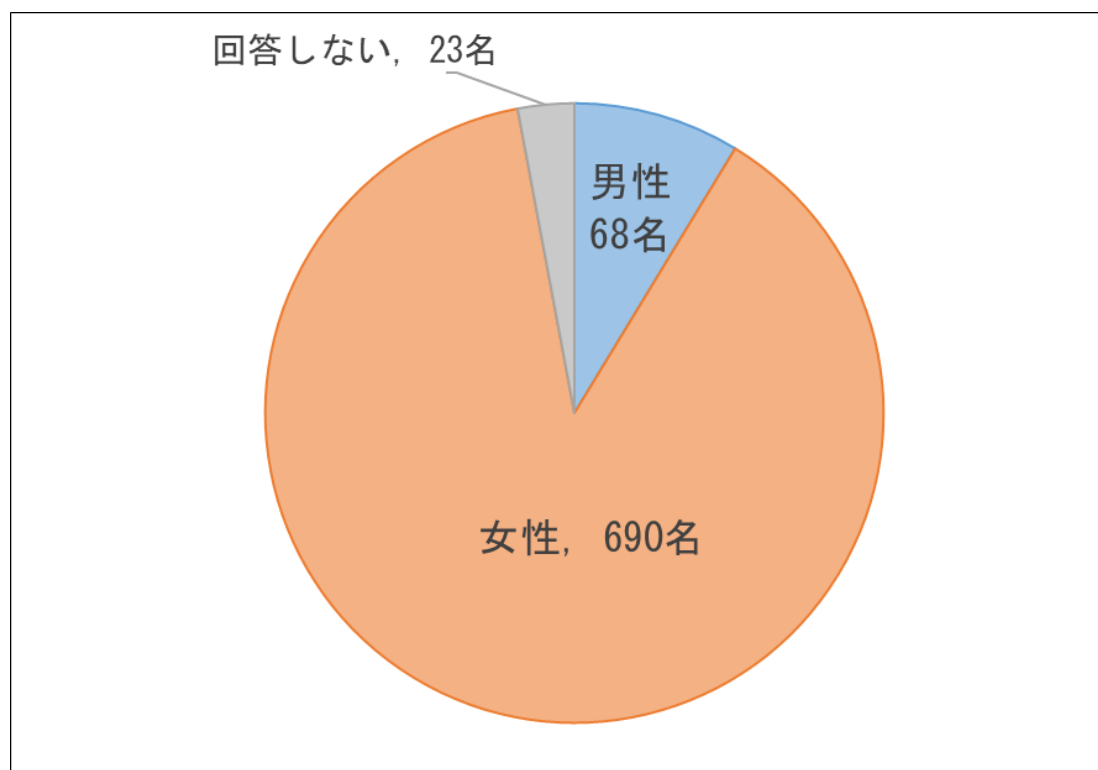
（５）その他

各図表のデータ処理にあたりましては、当該質問項目に対して無回答であった方を除いて処理を行っていますので、必ずしも合計値と回収した調査票数が一致するとは限りません。また、構成比率につきましても、それぞれの項目ごとの構成比を小数点以下第 2 位で四捨五入していますので、必ずしも構成比の合計値が 100%になるとは限りません。

2 基本情報

(1) 性別

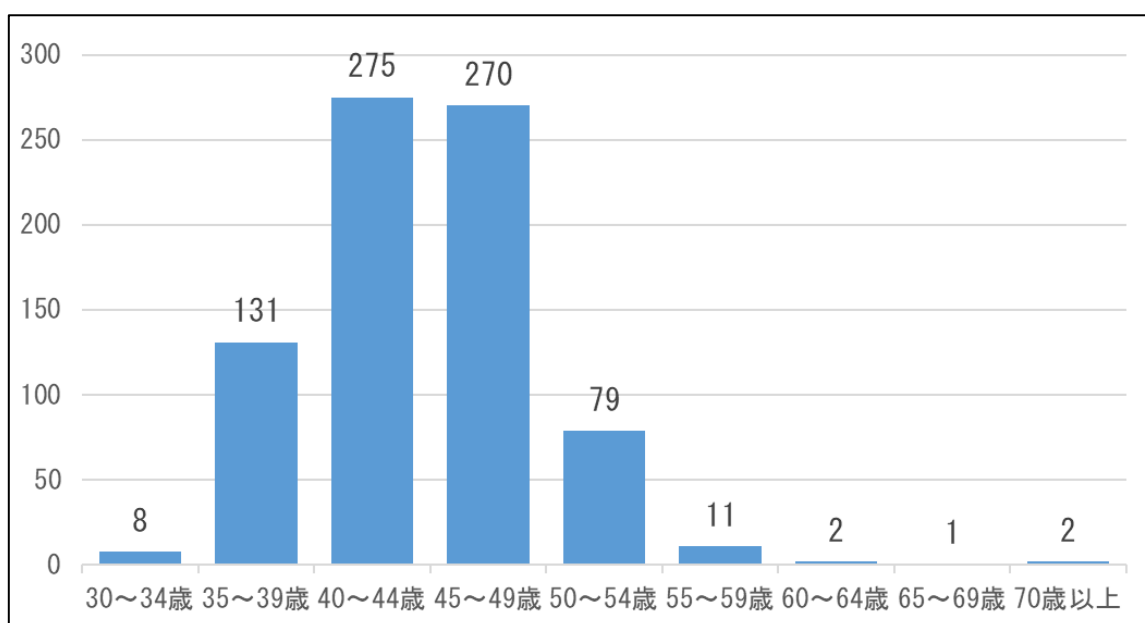
図表 2-1 によると、回答者のうち男性は 68 名、女性は 690 名、回答しないが 23 名となりました。



図表 2 - 1 回答者の性別 (N = 7 8 1)

(2) 年齢

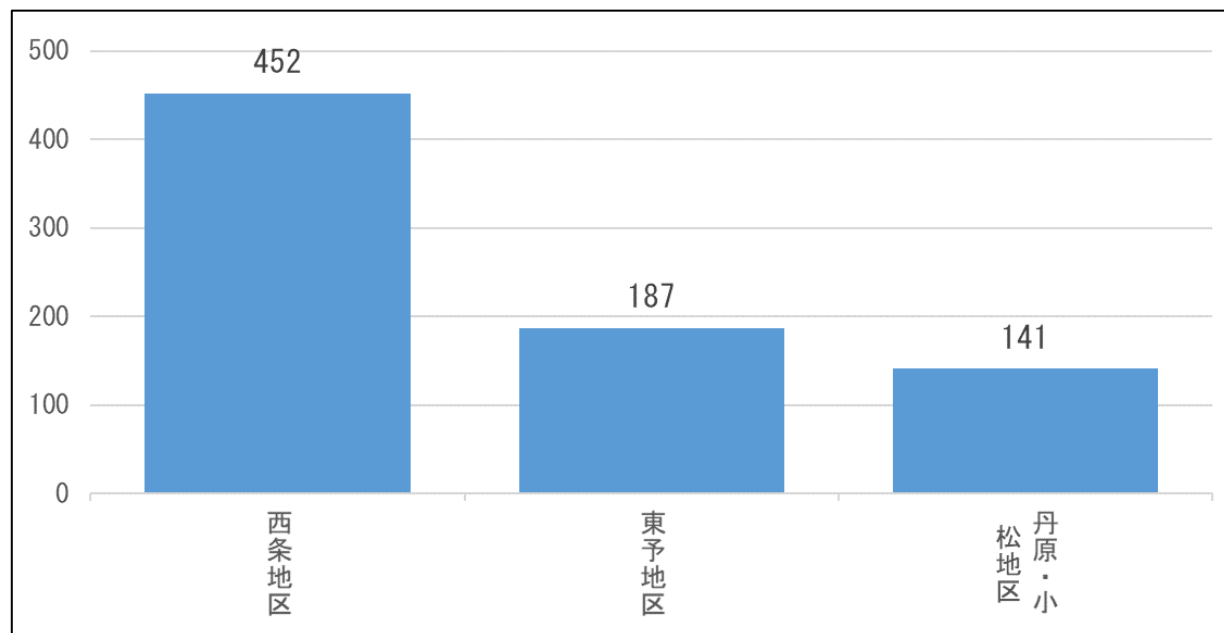
図表 2-2 によると、回答者は 35 歳から 49 歳の間で多くなりました。



図表 2 - 2 回答者の年齢 (N = 7 7 9)

(3) お住まいの地区

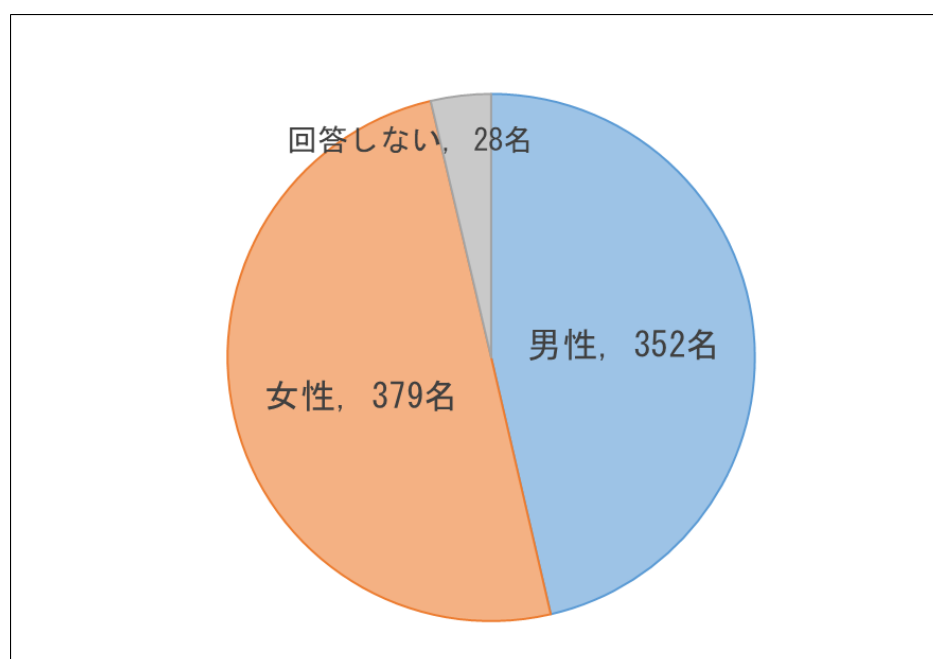
図表 2-3 によると、回答者は西条地区が最も多く、次いで東予地区、丹原・小松地区となりました。地区ごとに違いがありますが、本調査は概ね市内 10 の市立中学校に中学 3 年生が通学されている保護者の意見がバランスよく反映されています。



図表 2-3 回答者のお住まいの地区 (N=780)

(4) 子どもの性別

図表 2-4 によると、回答者の子どものうち男性が 352 名、女性が 379 名、回答しないが 28 名となりました。



図表 2-4 回答者の子どもの性別 (N=759)

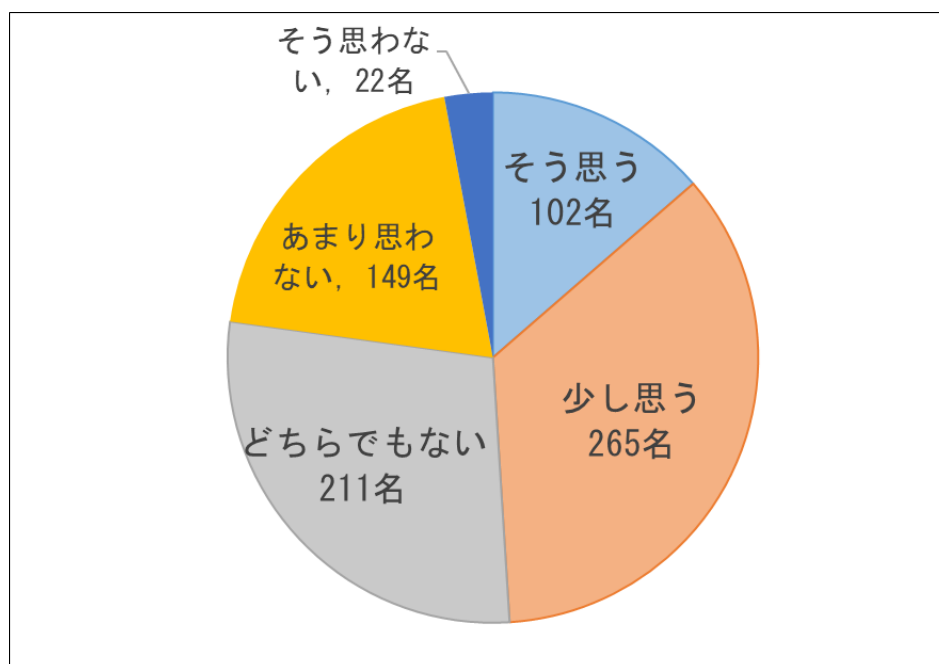
3 市内中学校の学校規模について

(1) 市内中学校の学校規模について

【結果概要】

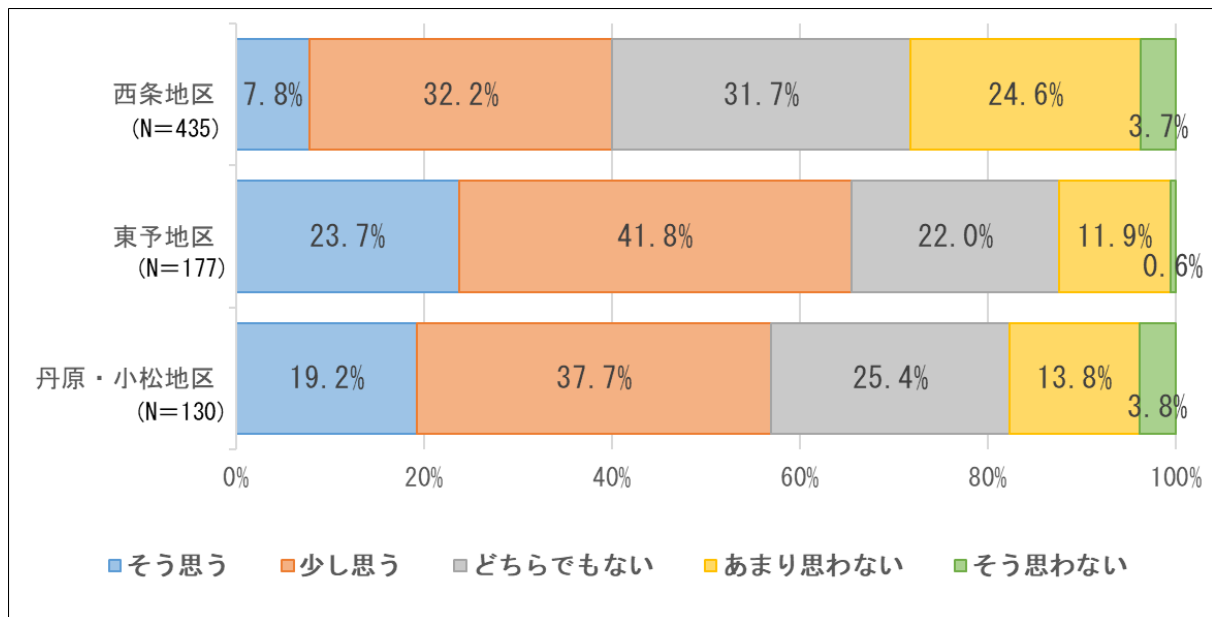
- 小さい規模の中学校が多いと感じている方と、そう感じていない方の回答が約半々に分かれる結果となりました。(図表 3-1 参照)
- 地区別では、西条地区と比べて東予・丹原・小松地区で小さい規模の学校が多いと感じている方が多い傾向がみられ、特に東予地区の回答では約 7 割の方が小さい規模の中学校が多いと回答する結果となりました。(図表 3-2 参照)
- 大規模校では小さい規模の中学校が多いと感じる回答が 42.6%だったのに対し、小規模校では 61.9%と回答する比率が高くなりました。(図表 3-3)

図表 3-1 によると、「少し思う」と回答した方が最も多く、次いで「どちらでもない」と回答した方多い結果となりました。



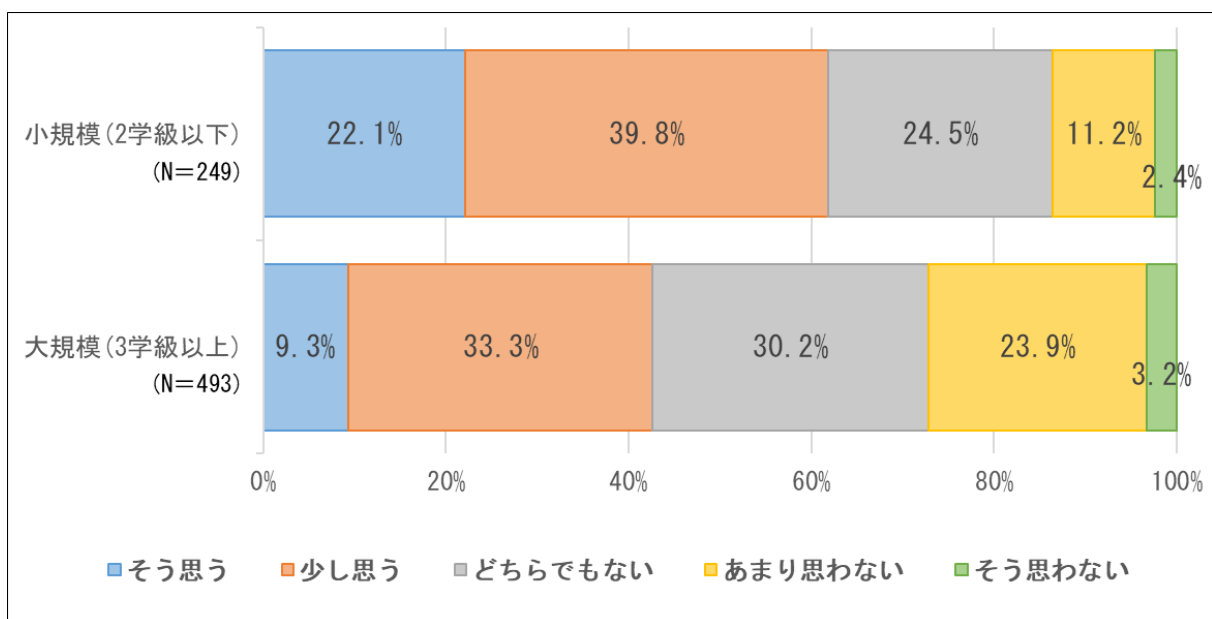
図表 3－1 小さい規模の中学校が多いと感じる（N＝749）（単純集計）

図表 3-2 によると、すべての地区で「少し思う」と回答した比率が最も高くなった一方で、西条地区では「どちらでもない」「あまり思わない」と回答した比率が他の地区と比べて高くなる傾向がみられました。



図表 3-2 小さい規模の中学校が多いと感じる（お住まいの地区別）

図表 3-3 によると、すべての規模で「少し思う」と回答した比率が最も高くなった一方で、大規模（3学級以上）では「どちらでもない」「あまり思わない」と回答した比率が小規模（2学級以下）と比べて高くなる傾向がみられました。



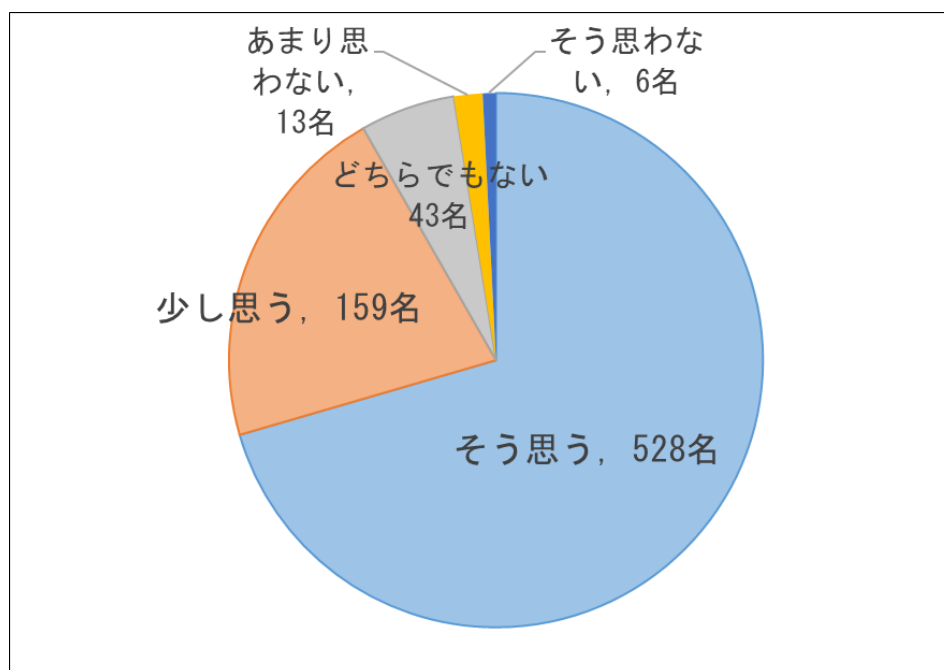
図表 3-3 小さい規模の中学校が多いと感じる（生徒を通学させる中学校の3年生規模別）

(2) 20 年前と現在の子どもの数について

【結果概要】

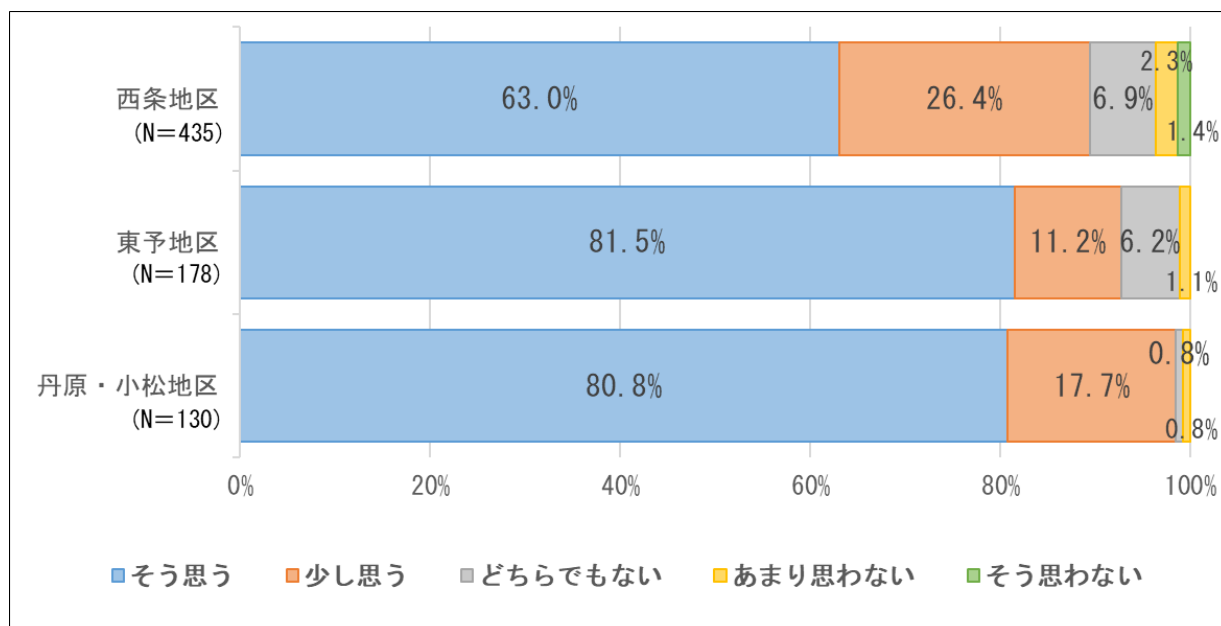
- 20 年前に比べて子どもの数が少なくなったと感じると回答した方が約 9 割を占めました。(図表 3-4 参照)
- 地区別では、すべての地区で 20 年前に比べて子どもの数が少なくなったと感じる方が多い傾向がみられた一方で、子どもの数が少なくなったと一番高い比率で回答した丹原・小松地区の 98.5%に対し、西条地区では 89.4%と約 1 割程度回答する比率が低くなりました。(図表 3-5)
- 中学校の規模が小さいほど、20 年前に比べて子どもの数が少なくなったと感じる方が多い結果となり、生徒数の減少について課題だと感じている方が多い傾向がみられました。(図表 3-6 参照)

図表 3-4 によると、「そう思う」「少し思う」の方の回答が約 9 割となり、20 年前に比べると子どもの数が少なくなったと感じている方の回答が大半を占める結果となりました。



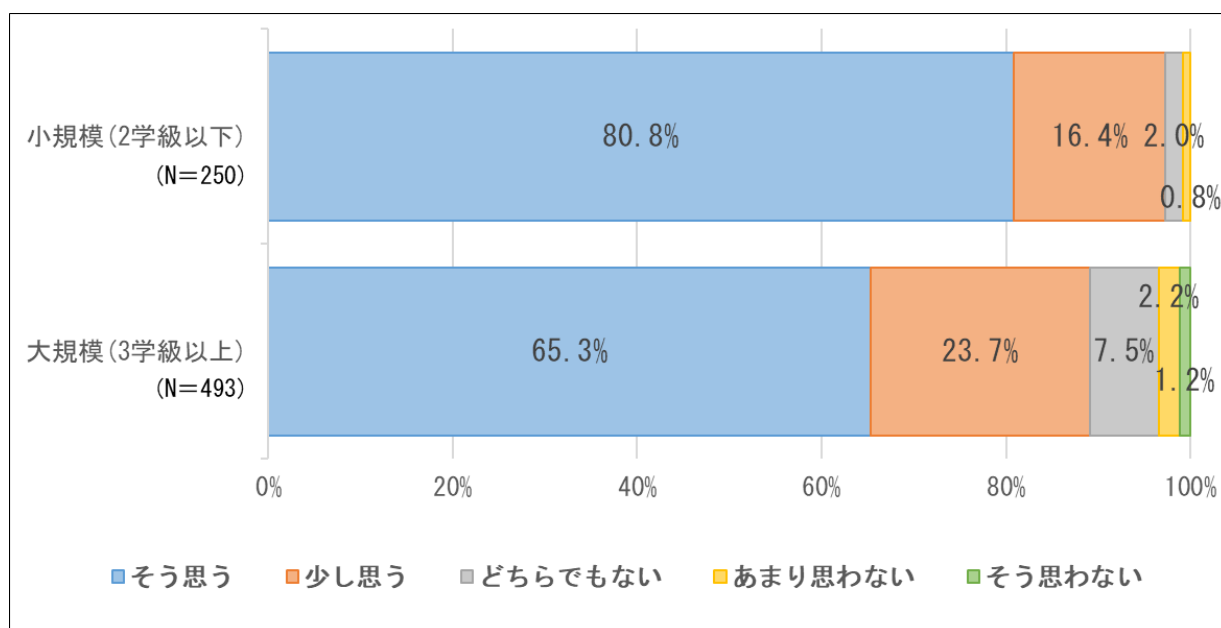
図表 3-4 20 年前に比べると子どもの数が少なくなったと感じる (N=749) (単純集計)

図表 3-5 によると、すべての地区で「そう思う」「少し思う」の比率が高くなりましたが、他の地区に比べて西条地区の回答の比率は低い傾向がみられました。



図表 3-5 20 年前に比べると子どもの数が少なくなったと感じる (N=743)
(お住まいの地区別)

図表 3-6 によると、すべての規模で「そう思う」「少し思う」と回答した比率が高くなった一方で、小規模 (2 学級以下) では「そう思う」「少し思う」と回答した比率が大規模 (3 学級以上) と比べて高くなる傾向がみられました。



図表 3-6 20 年前に比べると子どもの数が少なくなったと感じる (N=743)
(生徒を通学させる中学校の3年生規模別)

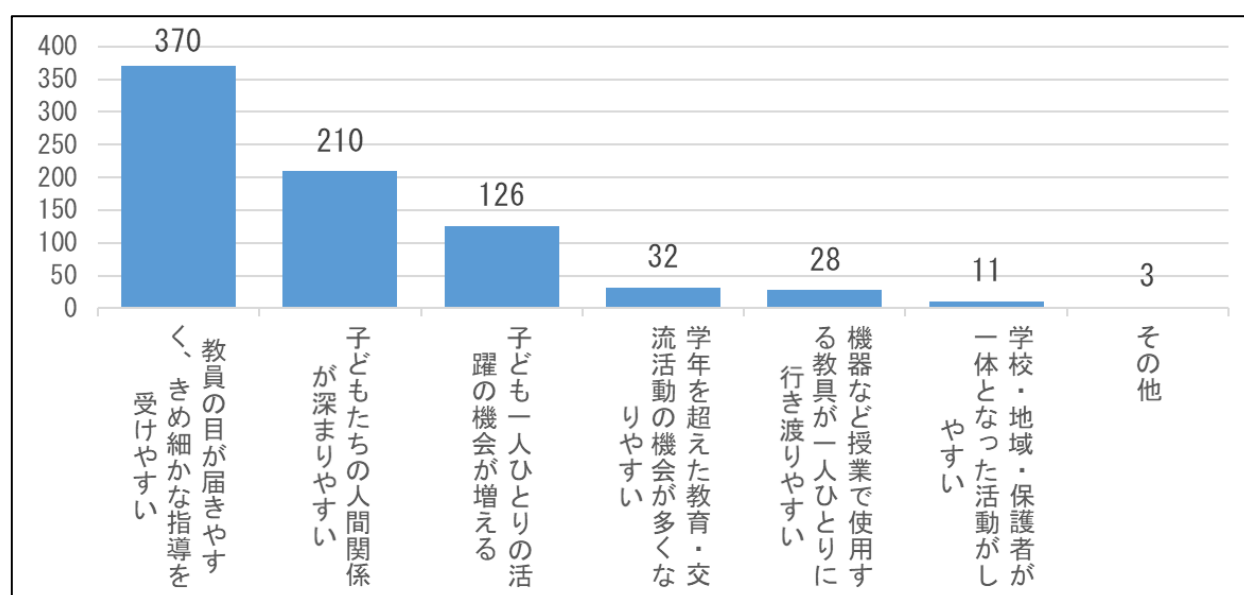
4 小規模校の良さと課題について

(1) 小規模校の良さ

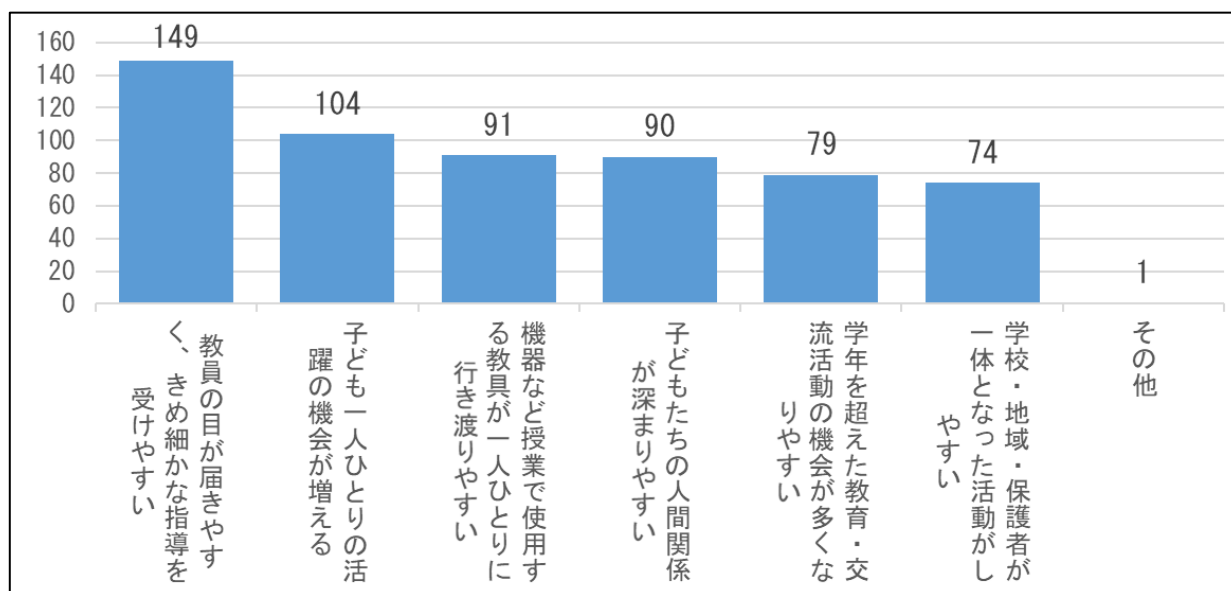
【結果概要】

- 教員のきめ細かな指導、人間関係の深まりや子どもの活躍機会の増加がメリットだと感じている方が多い一方で、地域の一体感を醸成するような機能を期待する回答が少ない傾向がみられました。(図表 4-1、4-2 参照)
- 子どもの男女別、規模別で回答に大きな差異はみられなかったものの、教員のきめ細かな指導が受けやすい、次いで人間関係の深まりや子どもの活躍機会の増加がメリットであると回答する方が多くなりました。また、地区別において丹原・小松地区では、子どもの活躍の機会の増加がメリットであると回答した比率が他の地区より高くなる傾向がみられました。(図表 4-3、4-4、4-5 参照)

図表 4-1 によると、第 1 選択では「教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい」と回答した方が最も多くなり、次いで「子どもたちの人間関係が深まりやすい」と回答した方が多くなりました。また、図表 4-2 によると、第 2 選択では「教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい」と回答した人が最も多くなり、次いで「子ども一人ひとりの活躍の機会が増える」と回答した方が多くなりました。

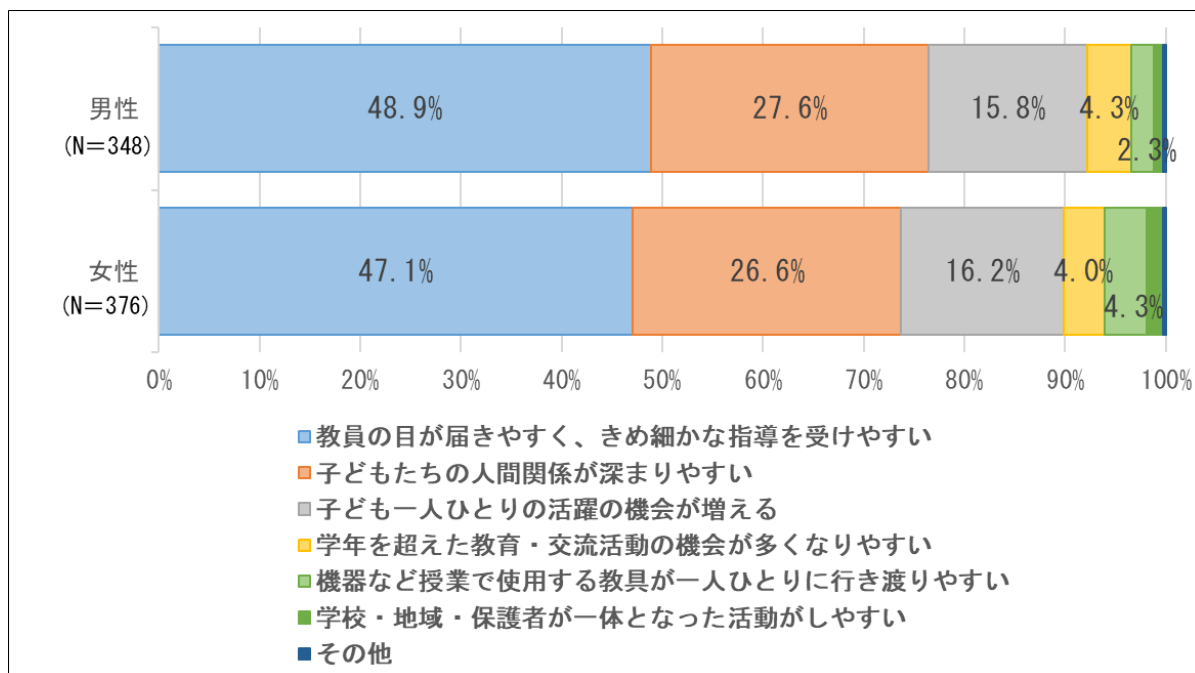


図表 4-1 小規模校の良さ（第 1 選択・単純集計）（N = 780）



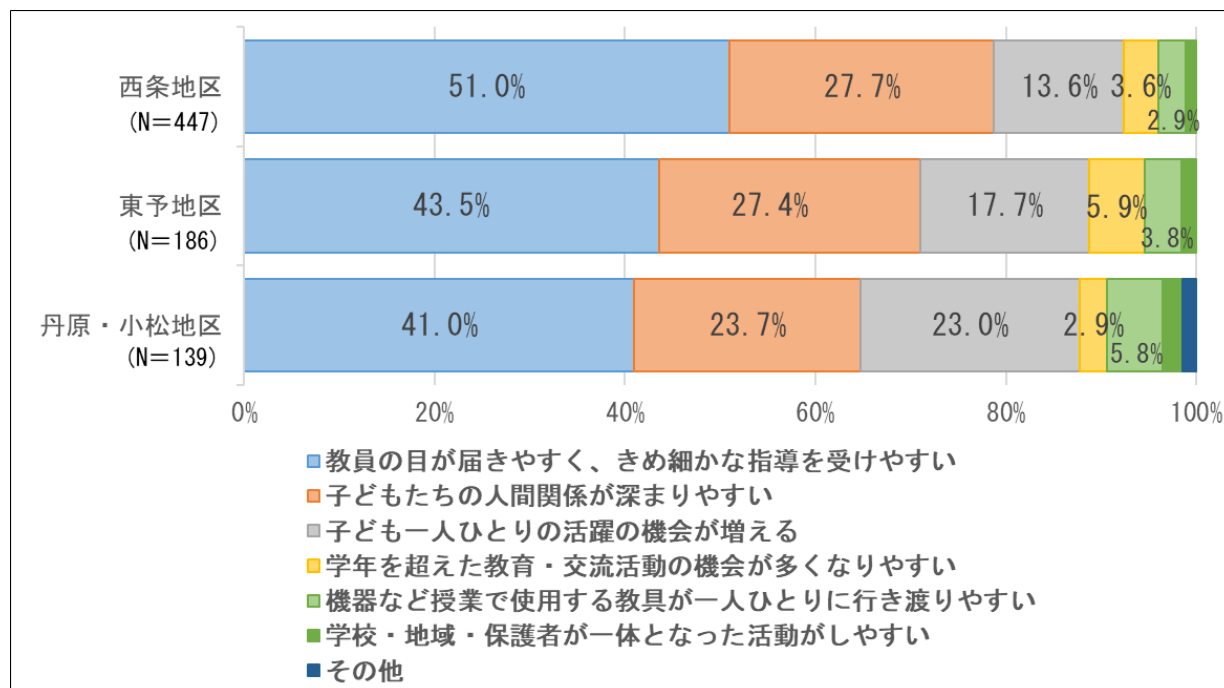
図表 4－2 小規模校の良さ（第2選択・単純集計）（N＝588）

図表 4-3 によると、子どもの性別では「教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい」と回答した比率が最も高くなり、次いで「子どもたちの人間関係が深まりやすい」と回答した比率が高くなりました。



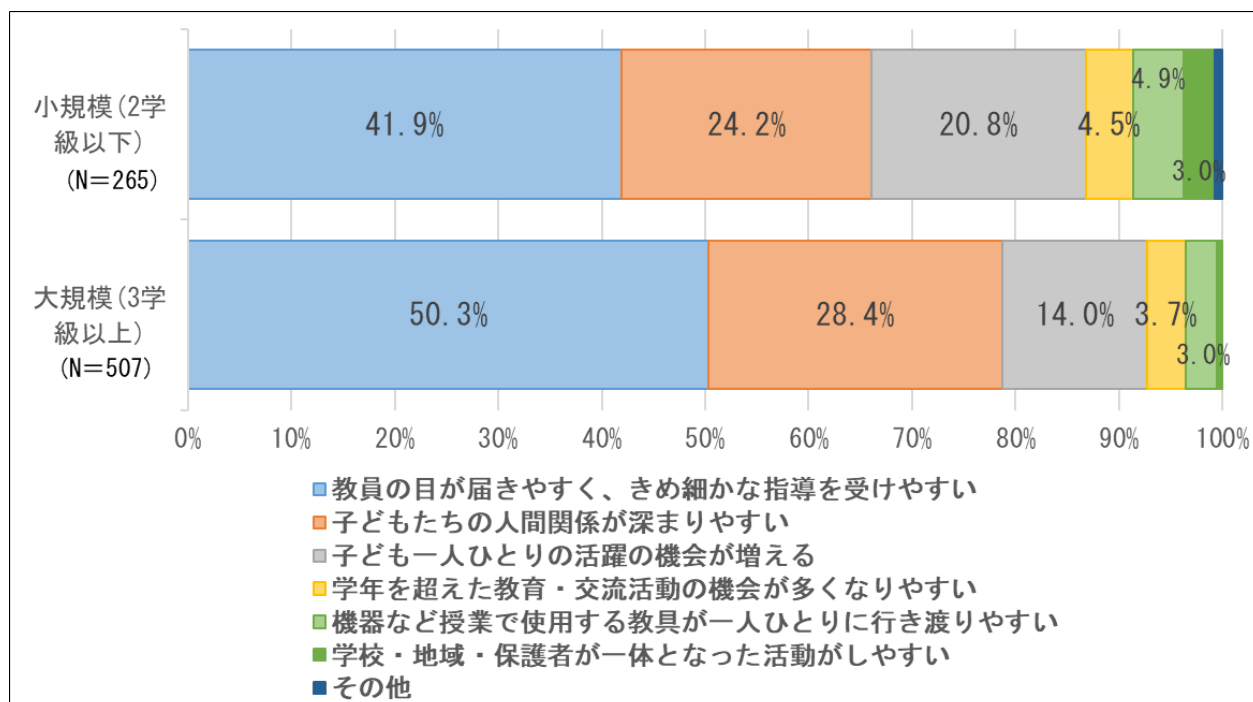
図表 4－3 小規模校の良さ（第1選択・回答者の子どもの男女別）

図表 4-4 によると、すべての地区で「教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい」と回答した比率が最も高くなり、特に西条地区では「教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい」と回答する比率が他の地区に比べて高くなる傾向がみられました。



図表 4-4 小規模校の良さ（第1選択・お住まいの地区別）

図表 4-5 によると、すべての中学校の規模で「教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい」と回答した比率が最も高くなり、次いで「子どもたちの人間関係が深まりやすい」と回答した比率が高くなりました。規模によって大きな違いはみられませんでした。



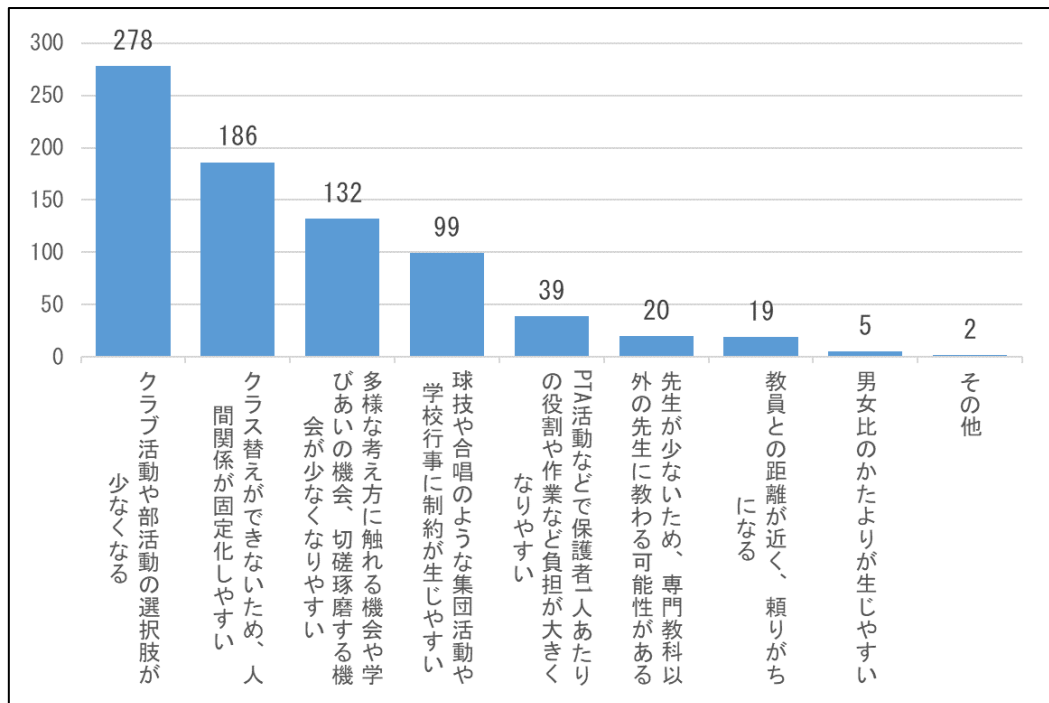
図表 4-5 小規模校の良さ（第1選択・生徒を通学させる中学校の3年生規模別）

(2) 小規模校の課題

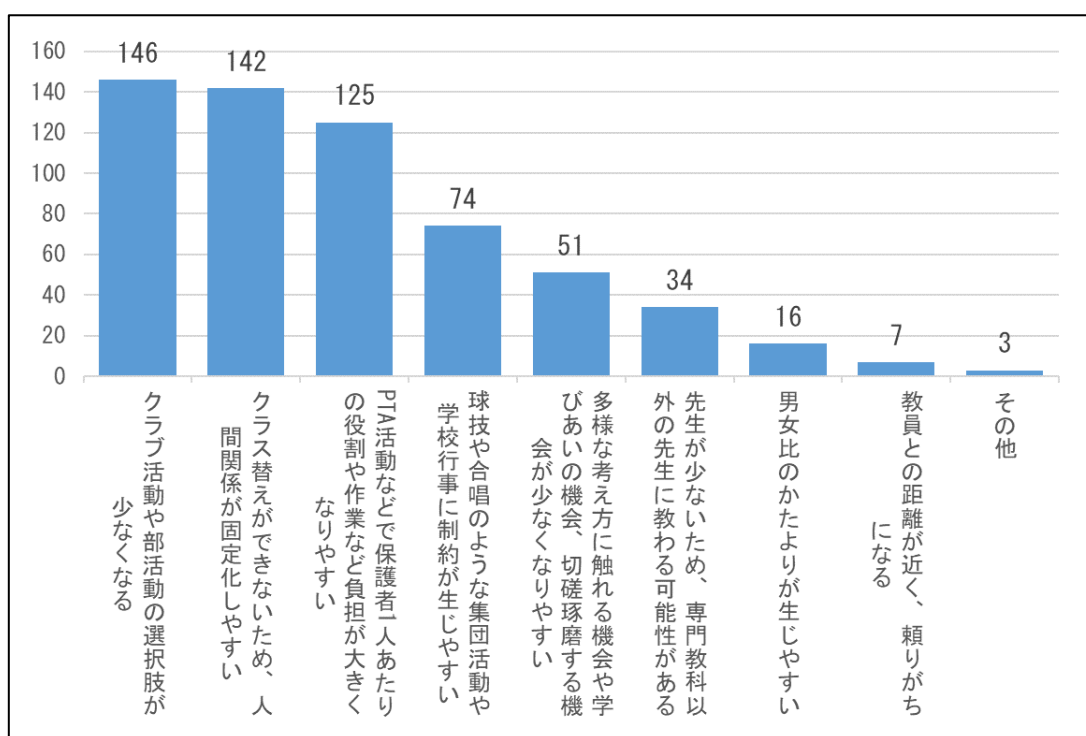
【結果概要】

- 第1選択・第2選択ともにクラブ活動や部活動の選択肢が少なくなると回答した方が最も多く、人数確保が困難なことから部活動の競技種目が減少している中学校が増えてきていることが原因ではないかと推察されます。(図表4-6、4-7参照)
- 子どもの男女別では、クラブ活動や部活動の選択肢が少なくなるに次いで、人間関係の固定化や多様な考え方に触れる機会の減少など、学校生活を通じた人間形成に資する環境を重視する回答が多くなりました。(図表4-8参照)
- 丹原・小松地区では、クラブ活動や部活動の選択肢が少なくなると回答した比率が他の地区より高く、現状において部活動等の選択肢が少ないと感じている方が多いのではないかと推察されます。(図表4-9参照)
- 小規模校では、クラブ活動や部活動の選択肢が少なくなると回答した比率が大規模校より高くなる傾向がみられました。(図表4-10参照)

図表4-6、4-7によると、第1選択・第2選択ともに「クラブ活動や部活動の選択肢が少なくなる」と回答した方が最も多くなり、次いで「クラス替えができないため、人間関係が固定化しやすい」と回答した方が多くなりました。

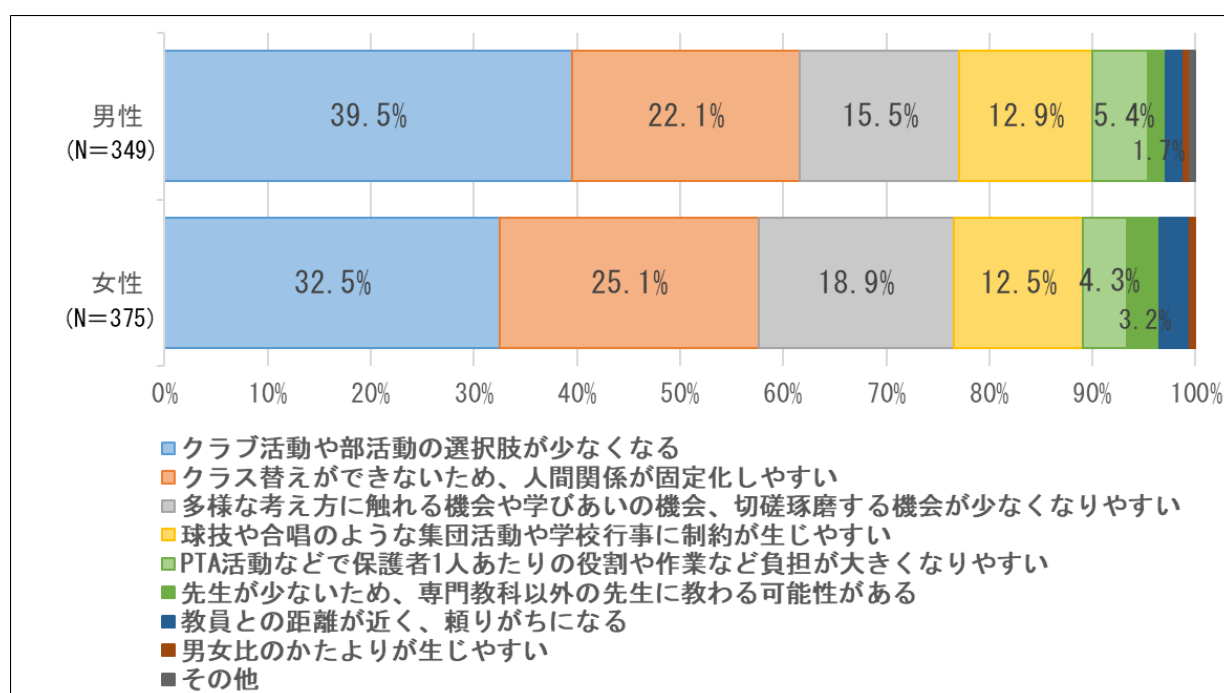


図表4-6 小規模校の課題（第1選択・単純集計）（N＝780）



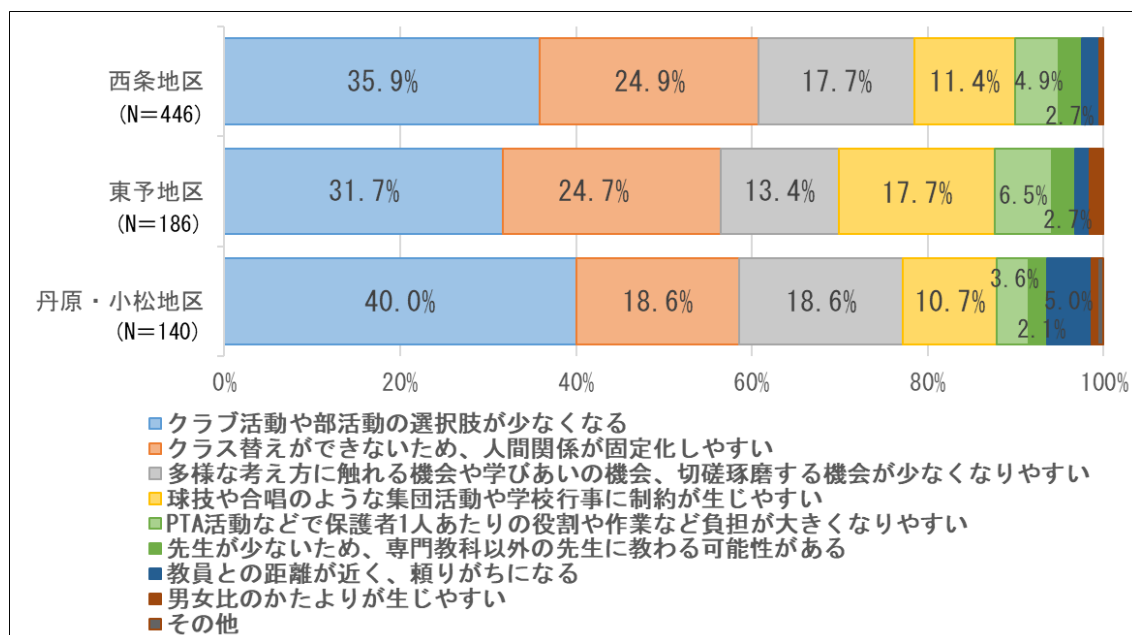
図表 4－7 小規模校の課題（第2選択・単純集計）（N＝598）

図表 4-8 によると、子どもの性別が男性の方は「クラブ活動や部活動の選択肢が少なくなる」と回答した比率が子どもの性別が女性より高くなる傾向がみられました。



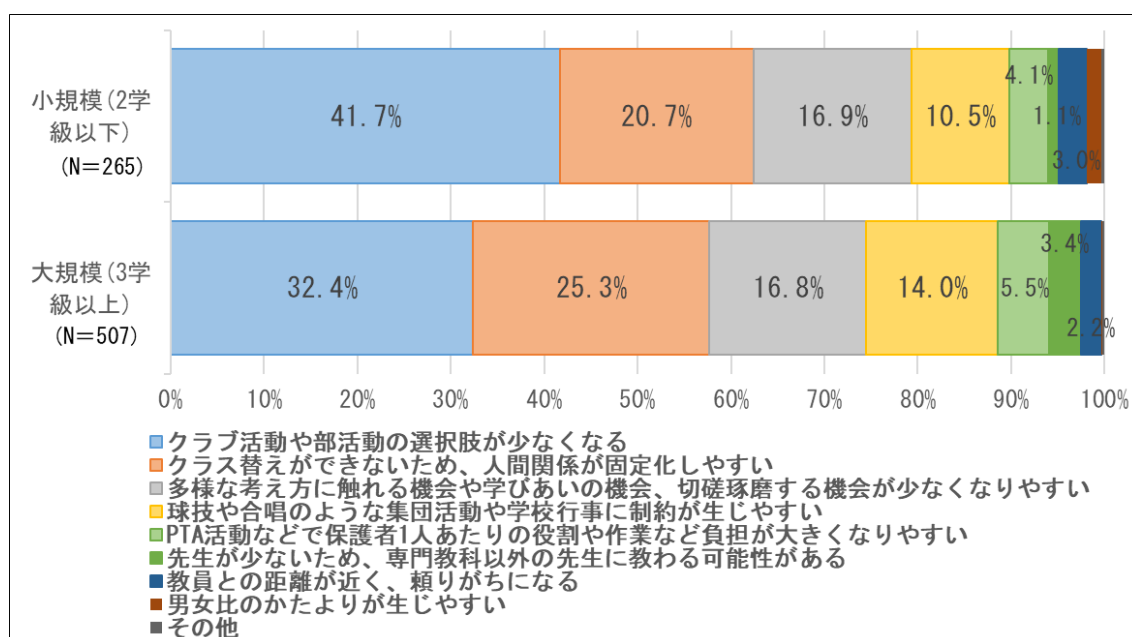
図表 4－8 小規模校の課題（第1選択・回答者の子どもの男女別）

図表 4-9 によると、すべての地区で「クラブ活動や部活動の選択肢が少なくなる」と回答した比率が最も高くなり、次いで「クラス替えができないため、人間関係が固定化しやすい」と回答した比率が高くなりました。特に、丹原・小松地区では「クラブ活動や部活動の選択肢が少なくなる」と回答した比率が他の地区に比べて高い傾向がみられました。



図表 4-9 小規模校の課題（第1選択・お住まいの地区別）

図表 4-10 によると、すべての中学校の規模で「クラブ活動や部活動の選択肢が少なくなる」と回答した比率が最も高くなり、次いで「クラス替えができないため、人間関係が固定化しやすい」と回答した比率が高くなりました。



図表 4-10 小規模校の課題（第1選択・生徒を通学させる中学校の3年生規模別）

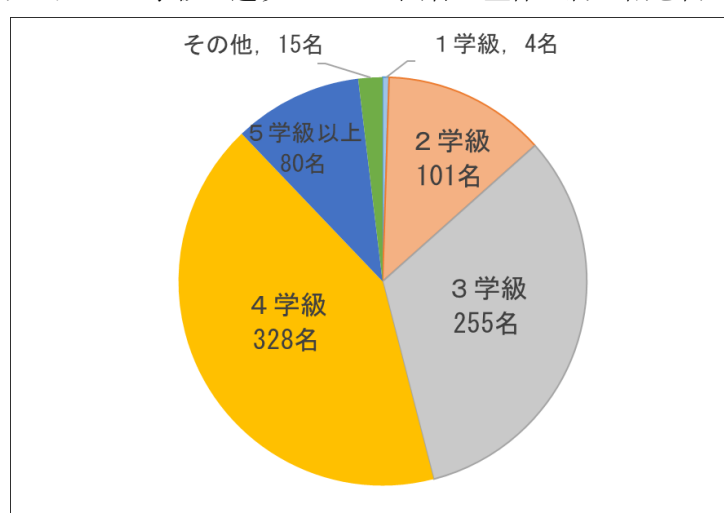
5 学級数と生徒数について

【結果概要】

- 1学年あたり3学級～4学級が適切であるという回答が約7割を占めました。（図表5-1 参照）
- 1学級あたりで適切だと思う生徒数では、「26～30人」が37.3%、「31～35人」が33.7%という結果となり、「26～30人」と回答した方が最も多くなりました。（図表5-2 参照）

（1）1学年あたりで適切だと思う学級数

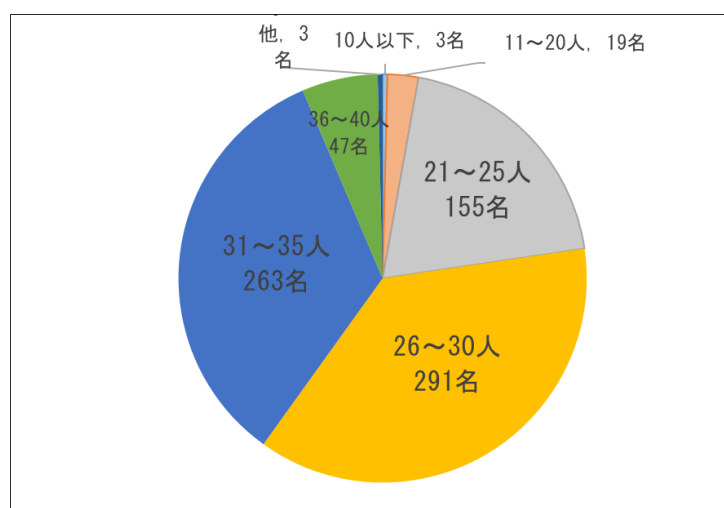
図表5-1によると、「4学級」と回答した方が最も多くなり、次いで「3学級」と回答した方が多くなりました。1学年あたり3～4学級が適切だとした回答が全体の約7割を占める結果となりました。



図表5-1 1学年あたりで適切だと思う学級数（単純集計）（N＝783）

（2）1学級あたりで適切だと思う生徒数

図表5-2によると、「26～30人」と回答した方が最も多くなり、次いで「31～35人」と回答した方が多くなりました。



図表5-2 1学級あたりで適切だと思う生徒数（単純集計）（N＝781）

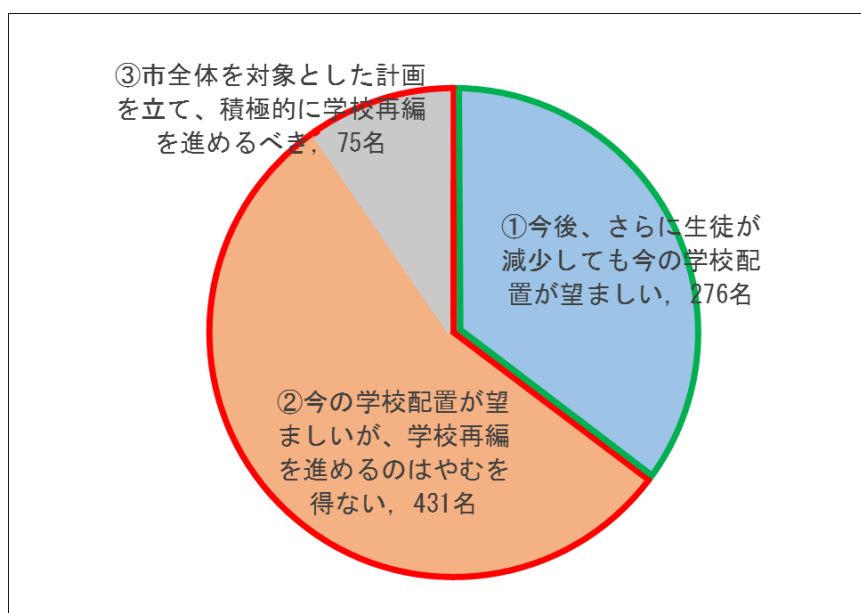
6 学校規模適正化に係る学校再編について

(1) 将来的に中学校の再編をどのようにしていくべきか

【結果概要】

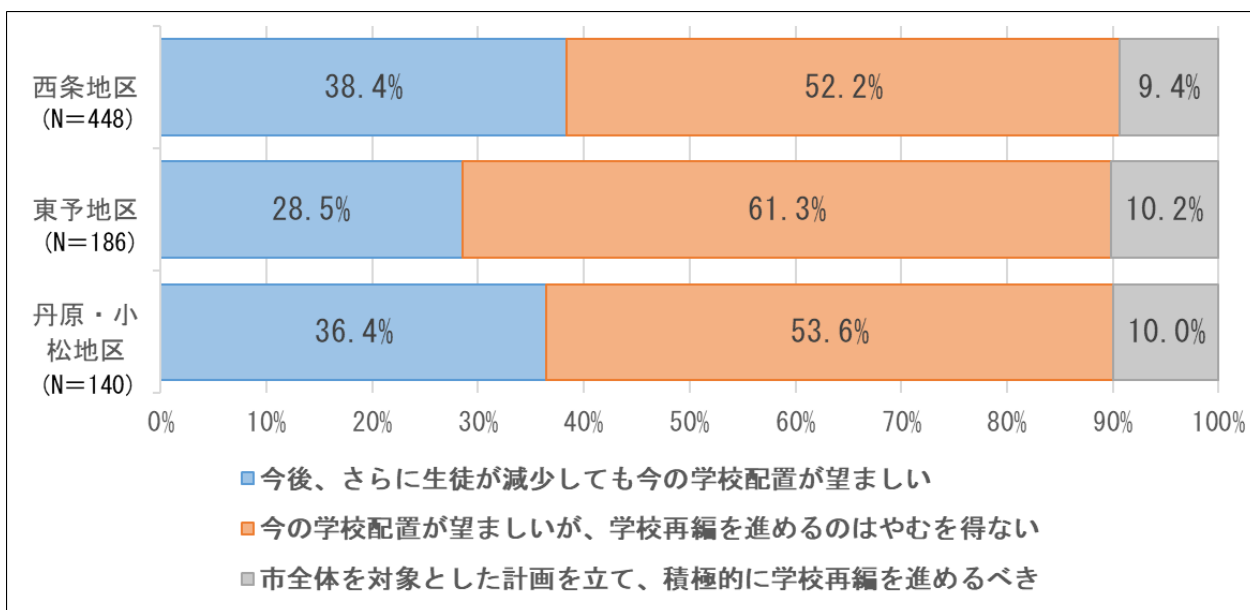
- 今の学校配置が望ましいと回答した方 35.3%に対して、学校再編を進めることはやむを得ない・積極的に学校再編を進めるべきとした回答が 64.7%を占め、学校再編を進めていくことへの回答が多い結果となりました。(図表 6-1 参照)
- 今の学校配置が望ましいと回答した方の理由として、学校は地域の活動拠点であるため、学校が無くなることで地域の衰退に繋がることを懸念されている方の回答が多い傾向がみられました。また、地区別では、東予地区で学校は地域の拠点活動であると回答した比率が他の地区より高くなった一方で、丹原・小松地区では、地域から学校がなくなるのは寂しいからと回答する比率が他の地区より高くなるなど、地域によって回答の傾向に差異がみられました。(図表 6-3、6-5 参照)
- 学校再編を進めることはやむを得ない・積極的に学校再編を進めるべきと回答した方の理由として、多くの友達や教員の意見・考えに触れることで多様な価値観を培うことが大切であると回答した方が多くなり、次いで、適正な教員配置による専門性の高い授業を望む声が多い傾向がみられました。地区別においては、東予地区で多くの友達や教員の意見・考えに触れることができる、クラス替えができると回答した比率が他の地区より高くなり、他の地区と比べて異なる傾向がみられました。(図表 6-7、6-8、6-9 参照)

図表 6-1 によると、「②今の学校配置が望ましいが、学校再編を進めるのはやむを得ない」と回答した方が最も多くなり、次いで「①今後、さらに生徒が減少しても今の学校配置が望ましい」と回答した方が多くなりました。今後、学校再編が必要であるとした回答が全体の約 6 割を占める結果となりました。



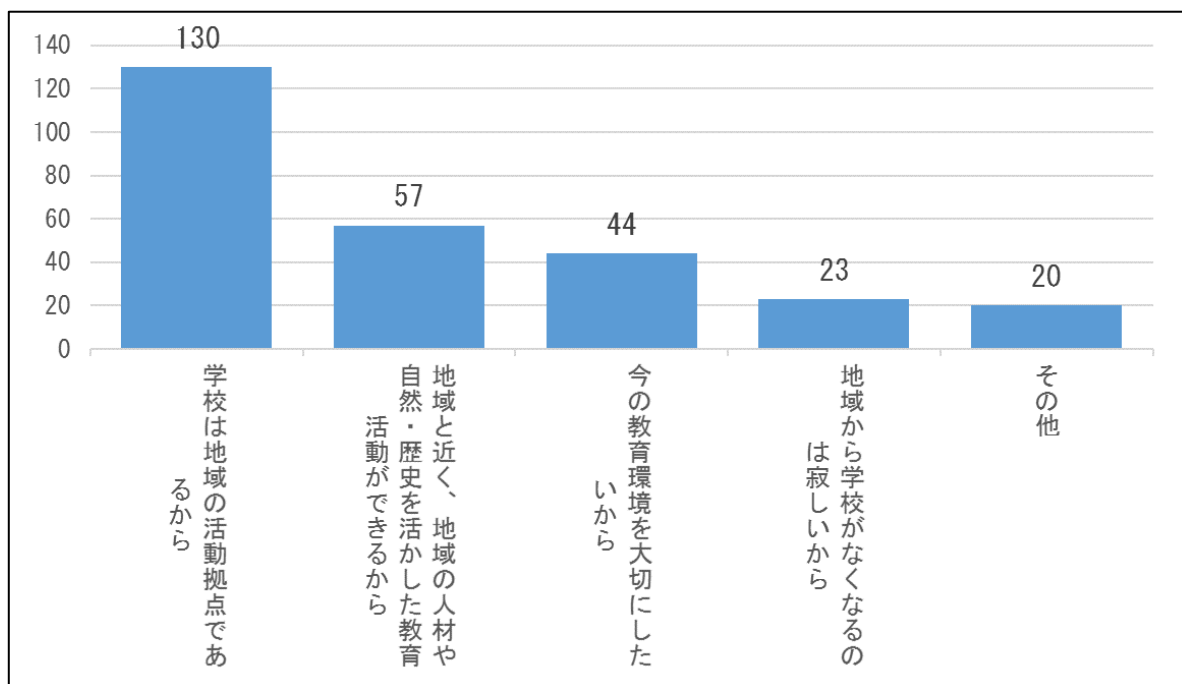
図表 6-1 将来的に望ましいと思う学校配置（単純集計）（N=782）

図表 6-2 によると、他の地区と比べて東予地区で学校再編に向けた回答の比率が高くなる傾向がみられました。

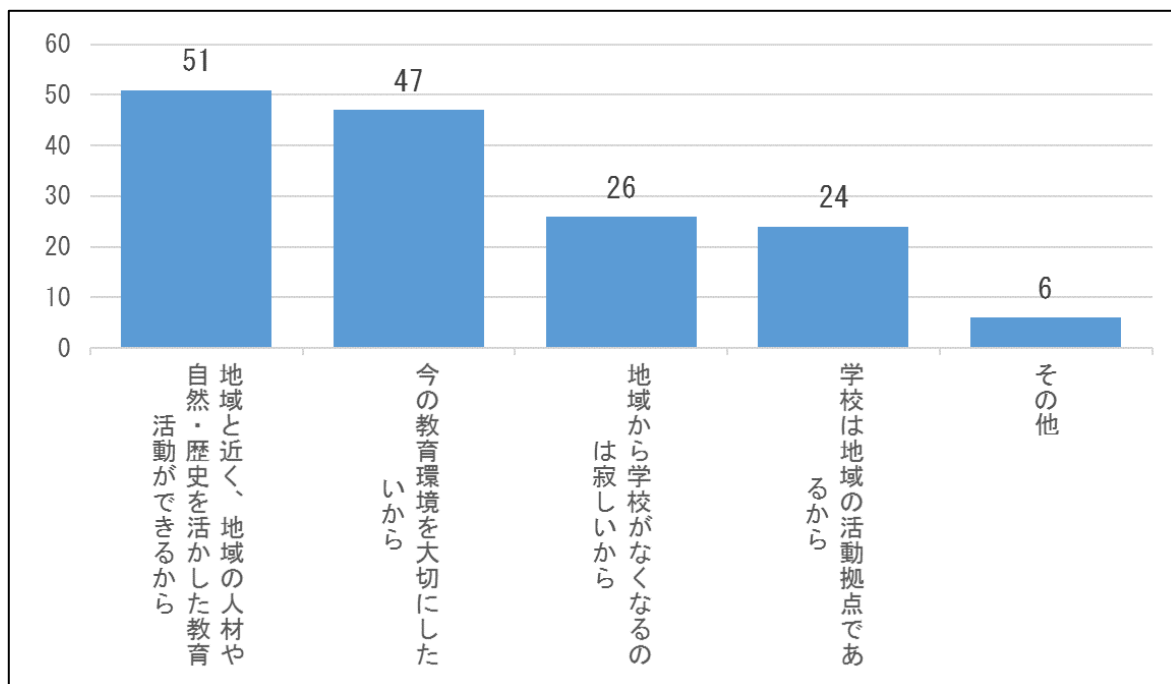


図表 6-2 将来的に望ましいと思う学校配置（お住まいの地区別）（N = 774）

図表 6-3～6-6 は、図表 6-1 で「①今後、さらに生徒が減少しても今の学校配置が望ましい」を選択した理由についての回答です。図表 6-3 によると、第1選択では「学校は地域の活動拠点であるから」と回答した方が最も多く、次いで「地域と近く、地域の人材や自然・歴史を活かした教育活動ができるから」と回答した方が多くなりました。また、図表 6-4 によると、第2選択では「地域と近く、地域の人材や自然・歴史を活かした教育活動ができるから」と回答した方が最も多く、次いで「今の教育環境を大切にしたいから」と回答した方が多くなりました。

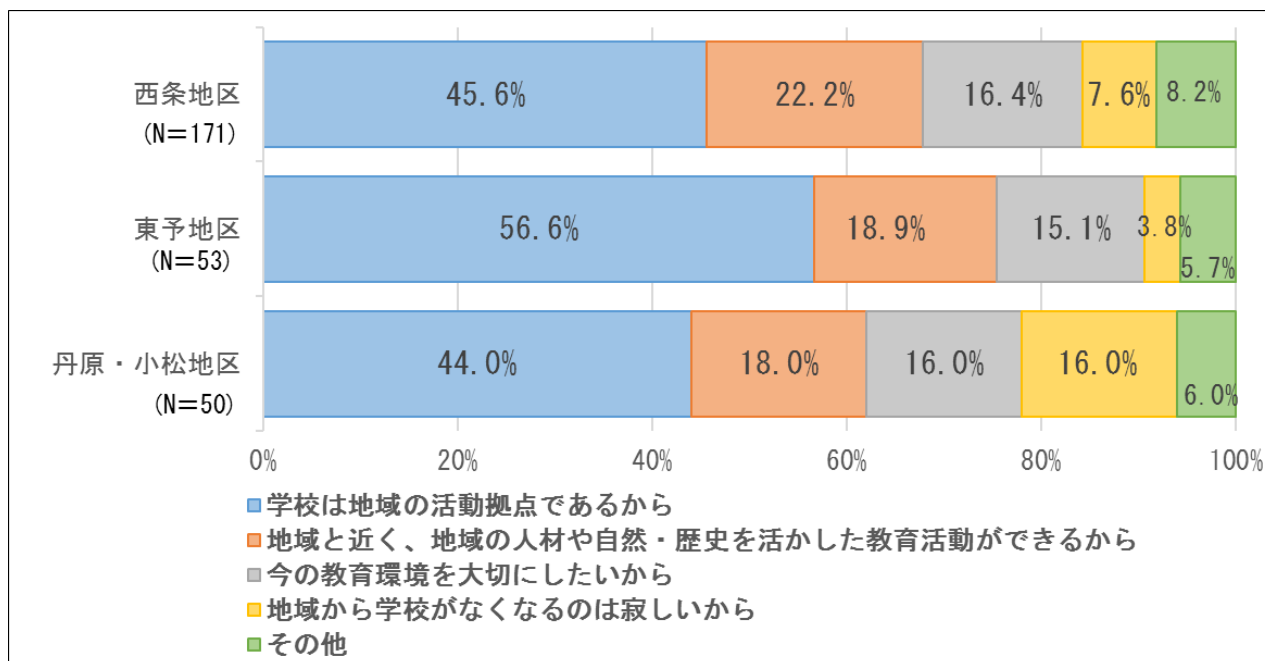


図表 6-3 図表 6-1 で①を選択した方の理由（第1選択・単純集計）（N = 274）



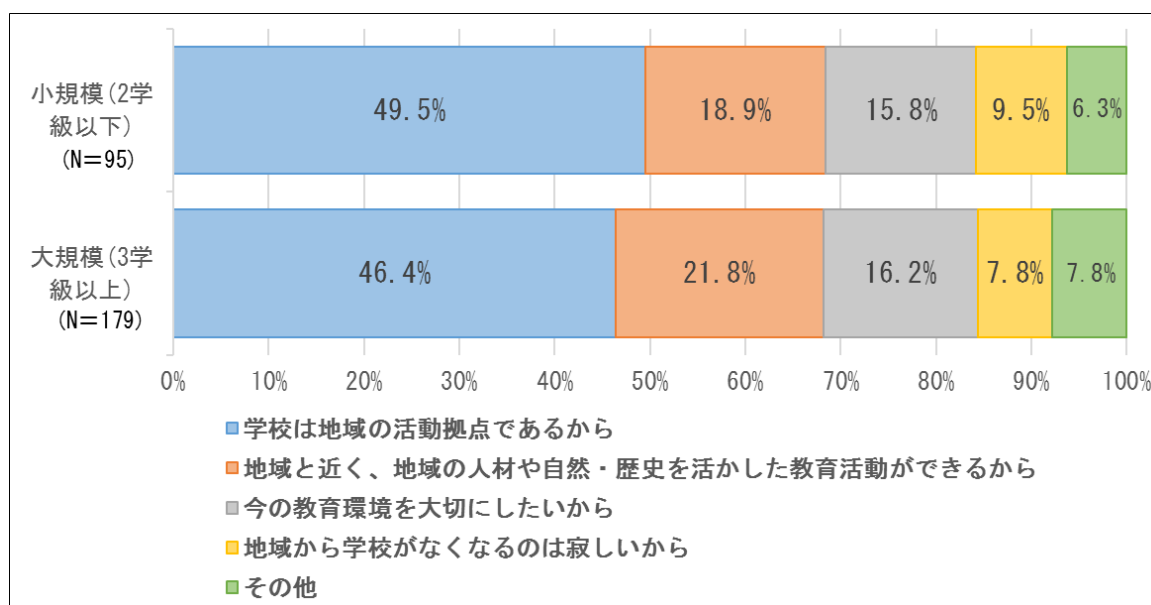
図表 6－4 図表 6－1 で①を選択した方の理由（第 2 選択・単純集計）（N＝154）

図表 6-5 によると、すべての地区で「学校は地域の活動拠点であるから」と回答した比率が最も高くなり、中でも、東予地区での回答する比率が他の地区より高くなる傾向がみられました。



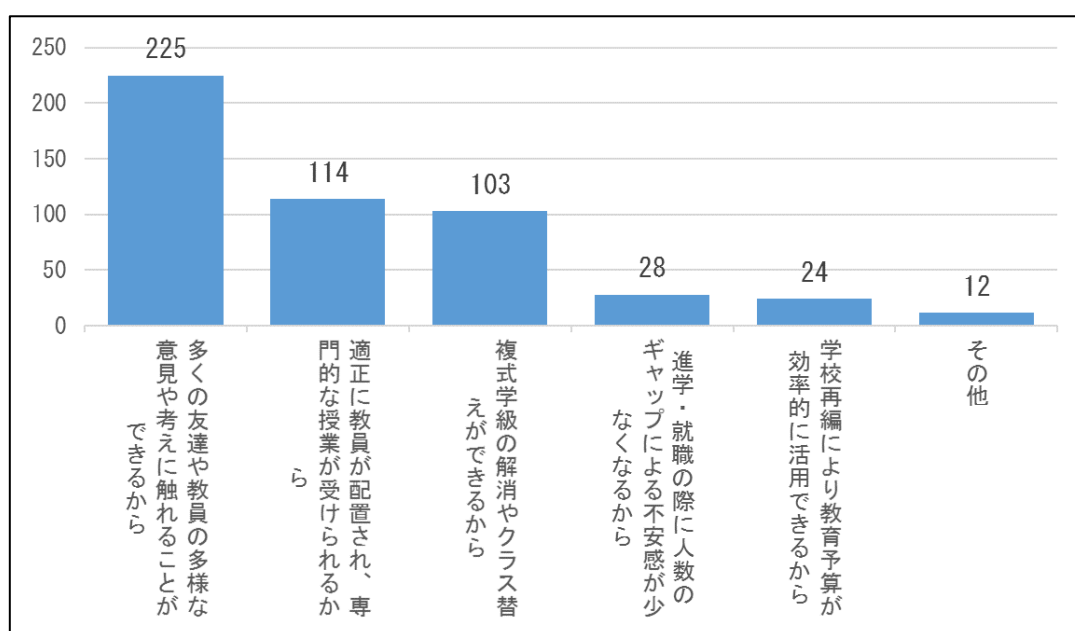
図表 6－5 図表 6－1 で①を選択した方の理由（第 1 選択・お住まいの地区別）

図表 6-6 によると、すべての中学校の規模で「学校は地域の活動拠点であるから」と回答した比率が最も高くなり、規模別で大きな違いはみられませんでした。

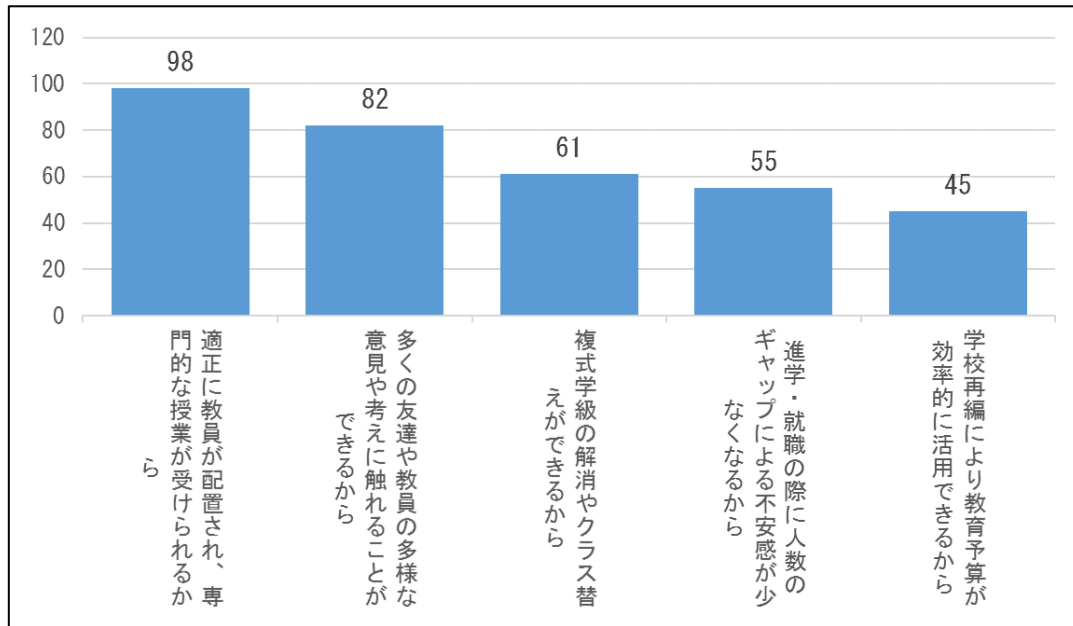


図表 6-6 図表 6-1 で①を選択した方の理由
(第1選択・生徒を通学させる中学校の3年生規模別)

図表 6-7～6-10 は、図表 6-1 で「②今の学校配置が望ましいが、学校再編を進めるのはやむを得ない」又は「③市全体を対象とした計画を立て、積極的に学校再編を進めるべき」を選択した理由についての回答です。図表 6-7 によると、第1選択では「多くの友達や教員の多様な意見や考えに触れることができるから」と回答した方が最も多く、次いで「適正に教員が配置され、専門的な授業が受けられるから」と回答した方が多くなりました。また、図表 6-8 によると、第2選択では「適正に教員が配置され、専門的な授業が受けられるから」と回答した方が最も多く、次いで「多くの友達や教員の多様な意見や考えに触れることができるから」と回答した方が多くなりました。

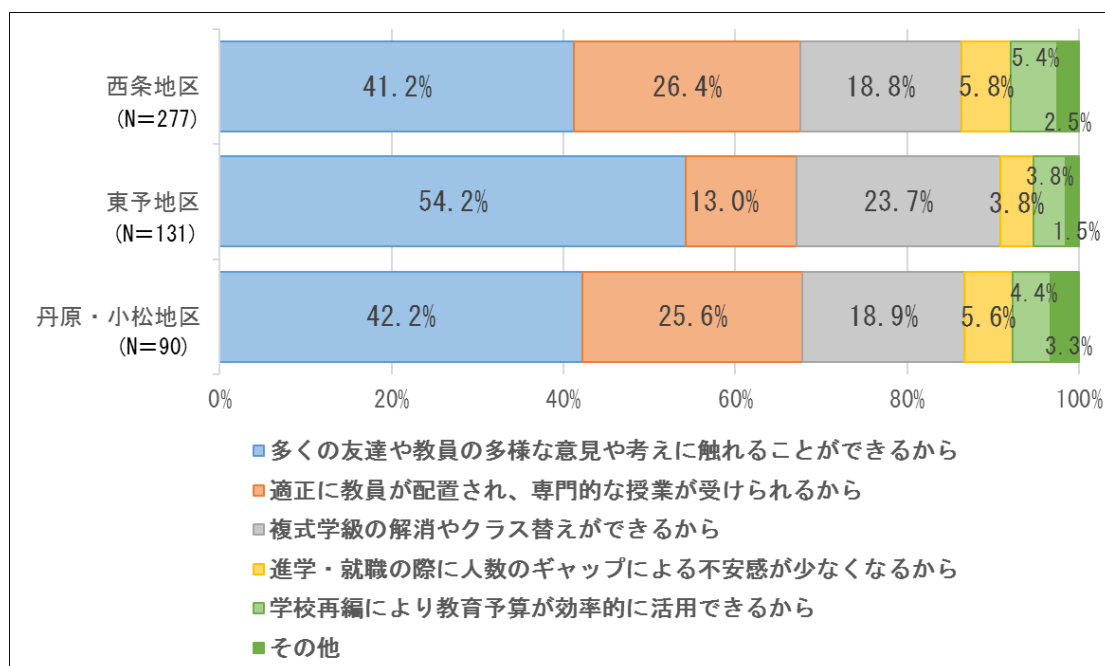


図表 6-7 図表 6-1 で②又は③を選択した方の理由 (第1選択・単純集計) (N=506)



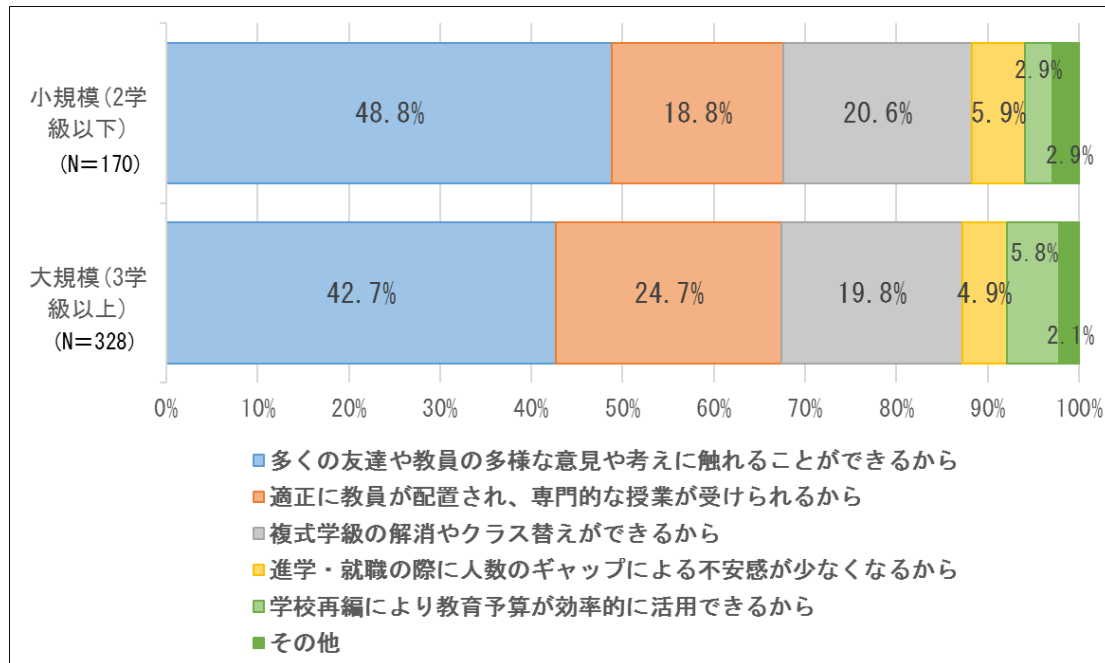
図表 6－8 図表 6－1 で②又は③を選択した方の理由（第 2 選択・単純集計）（N＝341）

図表 6-9 によると、すべての地区で「多くの友達や教員の多様な意見や考えに触れることができるから」と回答した比率が最も高くなった一方で、東予地区では他の地区と比べて「適正に教員が配置され、専門的な授業が受けられるから」と回答する比率が低く、「複式学級の解消やクラス替えができるから」と回答する比率が高くなり、東予地区と他の地区では傾向の違いがみられました。



図表 6－9 図表 6－1 で②又は③を選択した方の理由（第 1 選択・お住まいの地区別）

図表 6-10 によると、すべての中学校の規模で「多くの友達や教員の多様な意見や考えに触れることができるから」と回答した比率が最も高く、次いで「適正に教員が配置され、専門的な授業が受けられるから」と回答した比率が高くなりました。



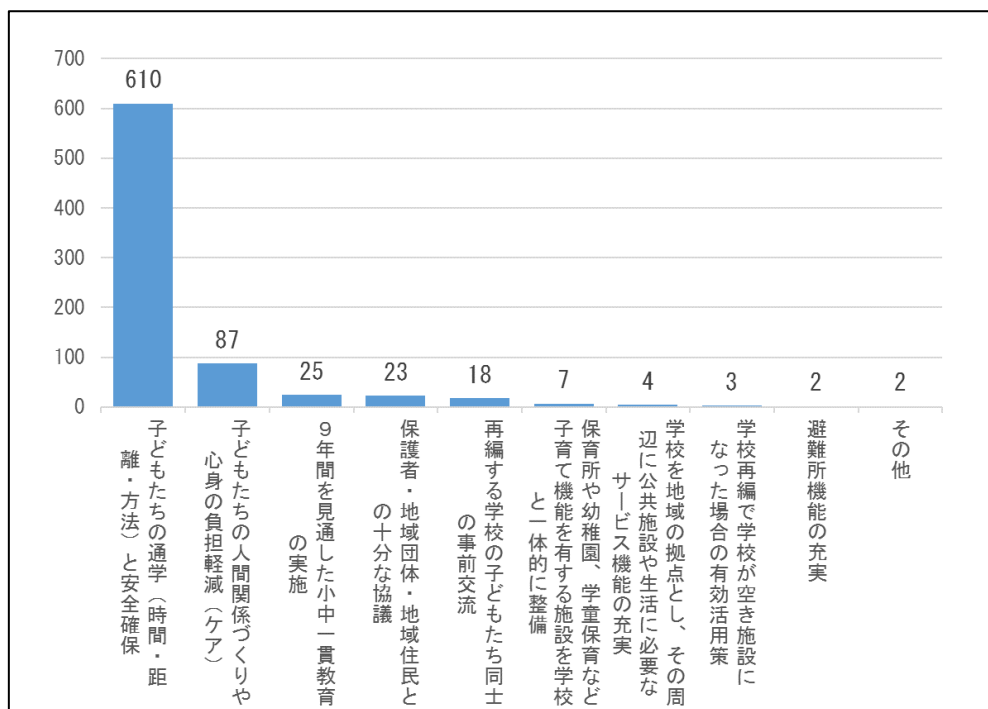
図表 6-10 図表 6-1 で②又は③を選択した方の理由
(第1選択・生徒を通学させる中学校の3年生規模別)

(2) 中学校の学校再編を進める場合に配慮が必要な点

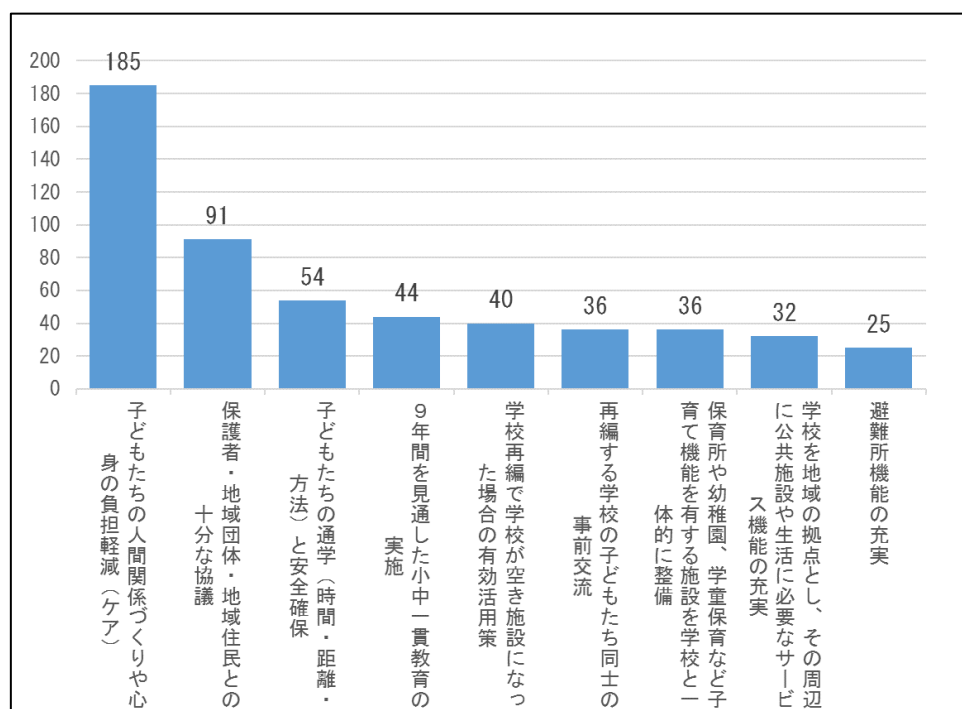
【結果概要】

- 子どもたちの通学（時間・距離・方法）と安全確保を望む声が最も多くなる一方で、子どもたちの人間関係づくりや心身の負担軽減、保護者や地域住民等との十分な協議など、環境が変わることへの配慮を重視した回答も多くなりました。（図表 6-11、6-12 参照）
- お住まいの地区別、中学校の規模別では、大きな違いはみられませんでした。（図表 6-13、6-14 参照）

図表 6-11 によると、第 1 選択では「子どもたちの通学（時間・距離・方法）と安全確保」と回答した方が最も多くなり、次いで「子どもたちの人間関係づくりや心身の負担軽減（ケア）」と回答した方が多くなりました。また、図表 6-12 によると、第 2 選択では「子どもたちの人間関係づくりや心身の負担軽減（ケア）」と回答した方が最も多くなり、次いで「保護者・地域団体・地域住民との十分な協議」と回答した方が多くなりました。

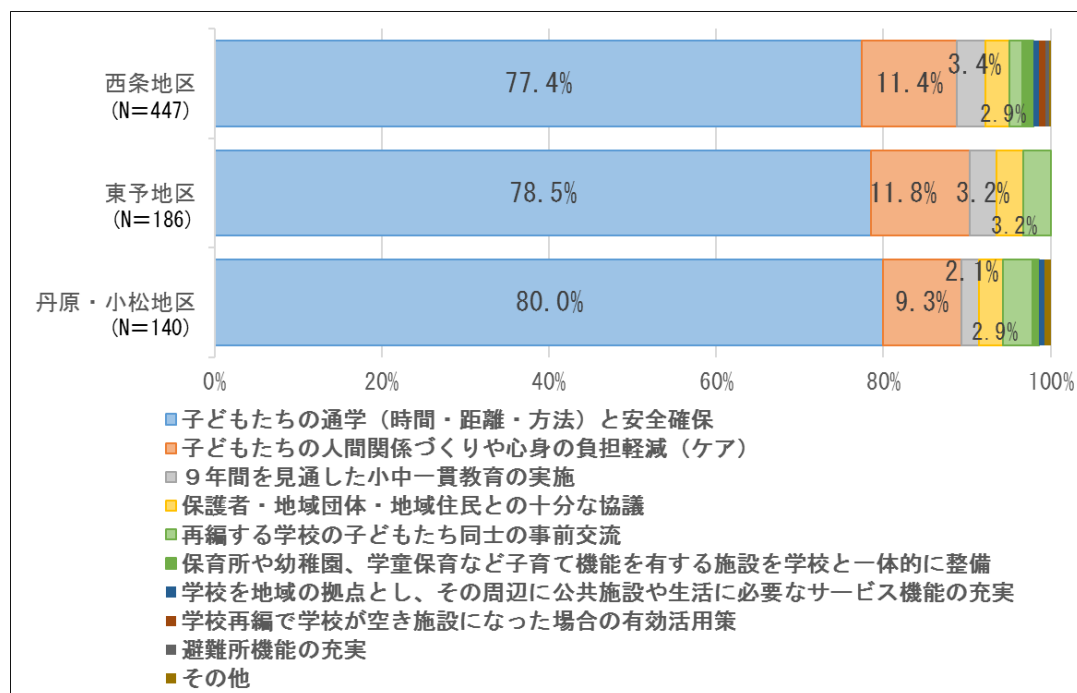


図表 6-11 学校再編を進めるために配慮が必要な点（第 1 選択・単純集計）（N = 7 8 1）



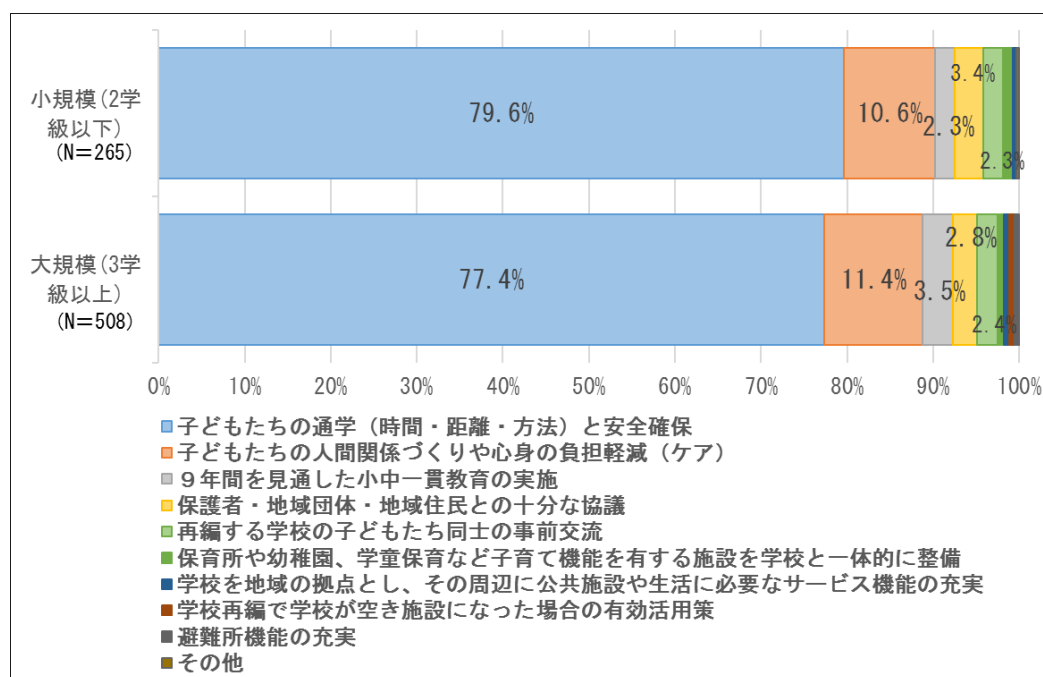
図表 6-12 学校再編を進めるために配慮が必要な点（第 2 選択・単純集計）（N = 5 4 3）

図表 6-13 によると、すべての地区で「子どもたちの通学（時間・距離・方法）と安全確保」と回答した比率が最も高くなり、次いで、「子どもたちの人間関係づくりや心身の負担軽減（ケア）」と回答した比率が高くなりました。



図表 6－１３ 学校再編を進めるために配慮が必要な点（第１選択・お住まいの地区別）

図表 6-14 によると、すべての中学校の規模で「子どもたちの通学（時間・距離・方法）と安全確保」と回答した比率が最も高くなり、次いで、「子どもたちの人間関係づくりや心身の負担軽減（ケア）」と回答した比率が高くなりました。



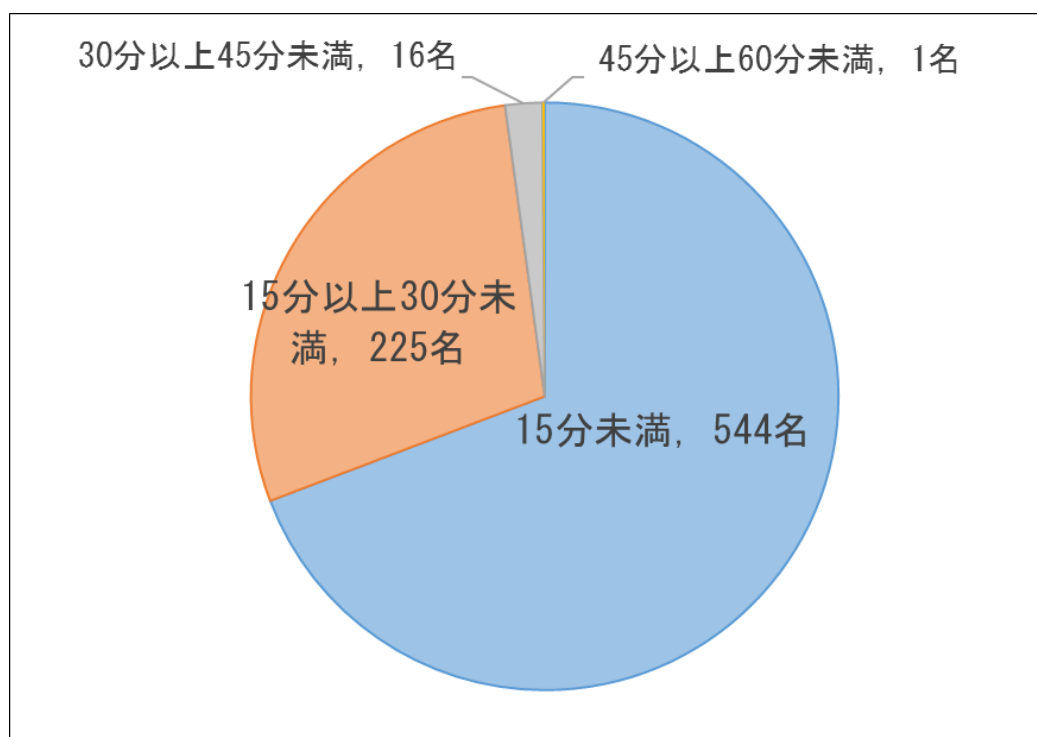
図表 6－１４ 学校再編を進めるために配慮が必要な点
（第１選択・生徒を通学させる中学校の３年生規模別）

(3) 中学校の学校再編を進める場合の通学に関して配慮が必要な点

【結果概要】

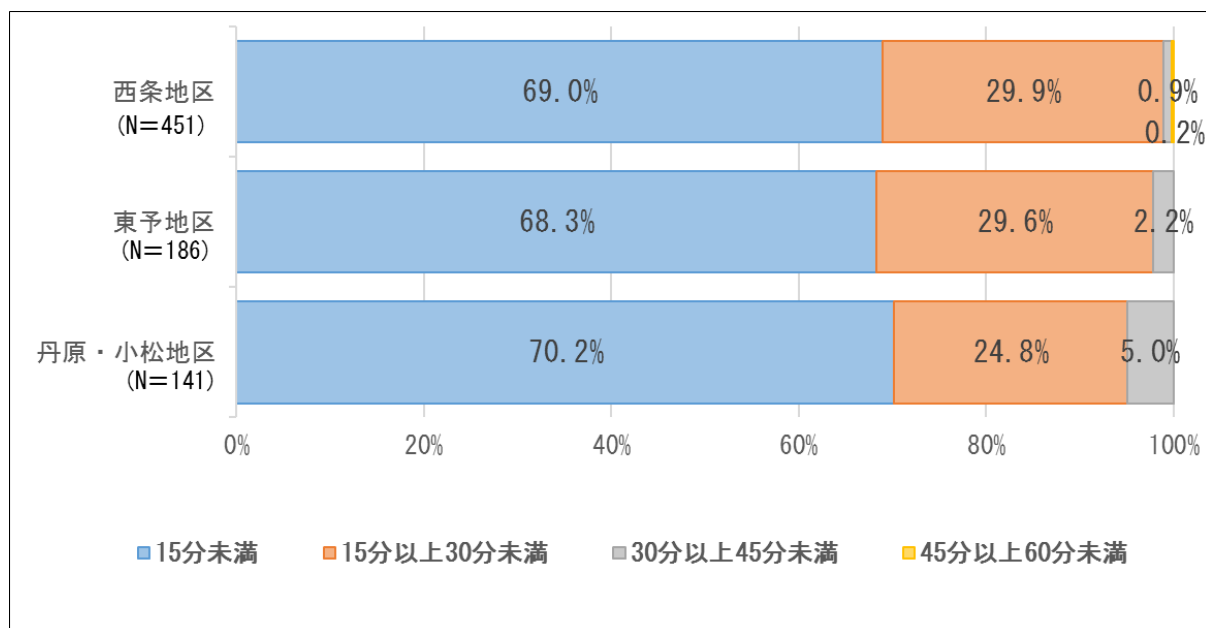
- お子様の現在の通学時間は 15 分未満との回答が多く、次いで 15 分以上 30 分未満と回答する方が多い結果となりました。地区別では、大きな差異はないものの、学校の規模別では、大規模に比べて小規模のほうが通学に要する時間が短くなりました。通学方法は、自転車が約 9 割を占めました。(図表 6-15、6-16、6-17、6-18 参照)
- 子どもの通学にかかる時間の許容範囲は、15 分以上 30 分未満が回答の約 7 割を占めました。地区別では、西条地区→東予地区→丹原・小松地区の順に、長い時間で回答する比率が高くなる傾向がみられました。(図表 6-19、6-20 参照)
- 必要な配慮については、住所から近い場所にある学校への通学を認めることと回答した方が最も多く、通学距離を重視した校区編制を望む保護者の声が多い傾向がみられました。特に、地区別では西条地区、規模別では大規模校の回答において住所から近い場所にある学校への通学を認めることを望む声が多くなる結果となりました。(図表 6-22、6-24、6-25 参照)

図表 6-15 によると、子どもの現在の通学時間は「15 分未満」と回答した方が最も多く、次いで「15 分以上 30 分未満」と回答した方が多くなりました。



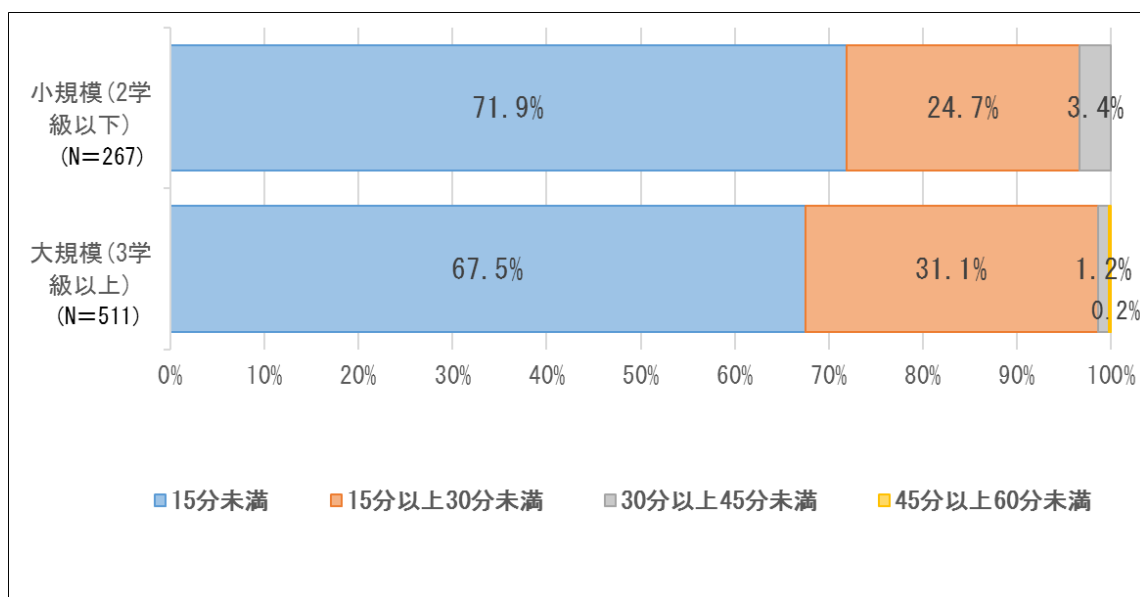
図表 6-15 回答者の子どもの現在の通学時間（単純集計）（N＝786）

図表 6-16 によると、すべての地区で「15 分未満」と回答した比率が最も高くなり、次いで「15 分以上 30 分未満」と回答した比率が高くなりました。地区別で大きな違いはみられませんでした。



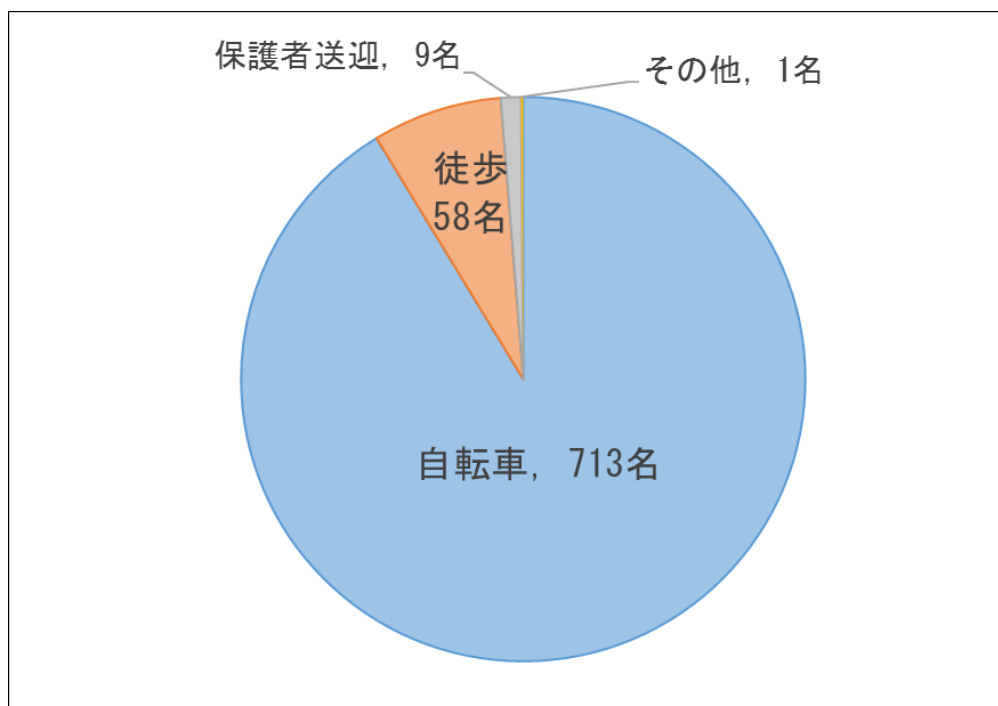
図表 6-16 回答者の子どもの現在の通学時間（お住まいの地区別）

図表 6-17 によると、すべての中学校の規模で「15 分未満」と回答した比率が最も高くなり、次いで「15 分以上 30 分未満」と回答した比率が高くなりました。学校の規模が小さくなるにつれて、短い通学時間で回答する比率が高くなりました。



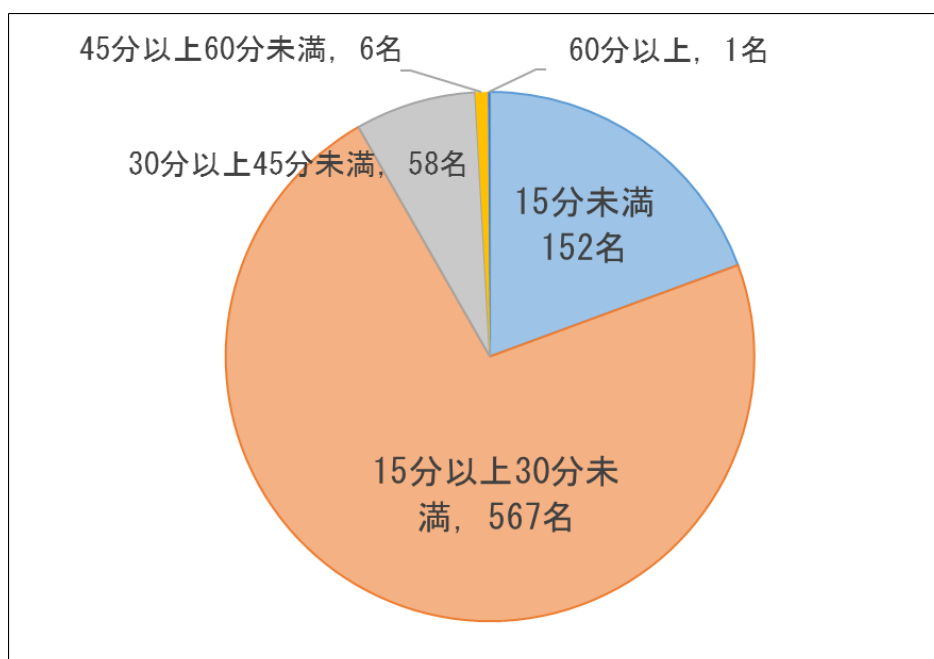
図表 6-17 回答者の子どもの現在の通学時間（生徒を通学させる中学校の3年生規模別）

図表 6-18 によると、現在の通学方法は 9 割以上の方が「自転車」と回答しました。



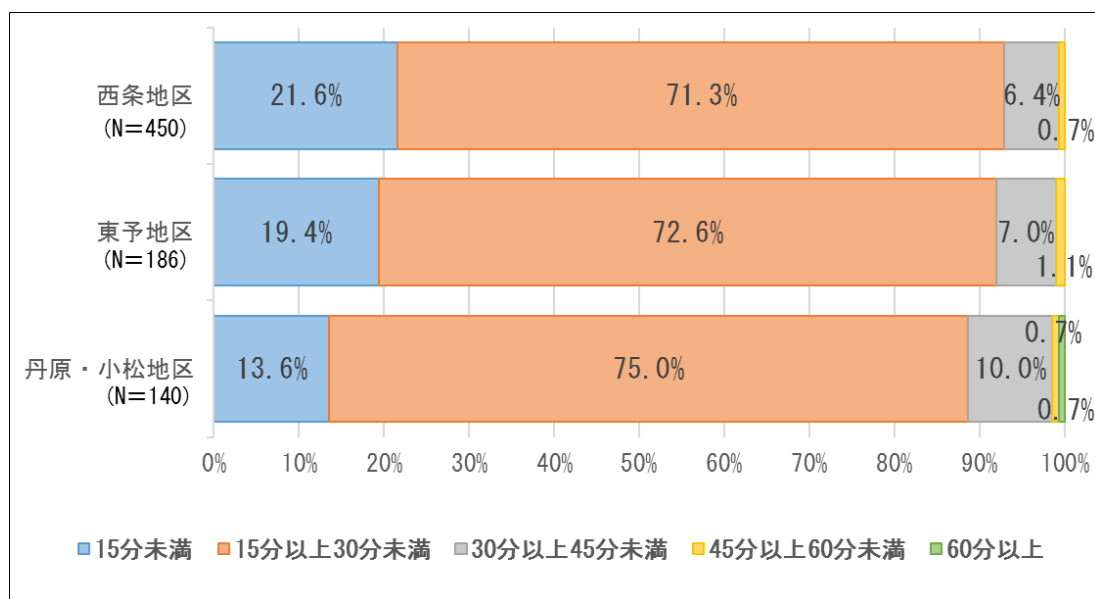
図表 6－18 回答者の子どもの現在の通学方法（単純集計）（N＝781）

図表 6-19 によると、通学にかかる時間の許容範囲は「15 分以上 30 分未満」と回答した方が最も多く、次いで「15 分未満」と回答した方が多くなりました。



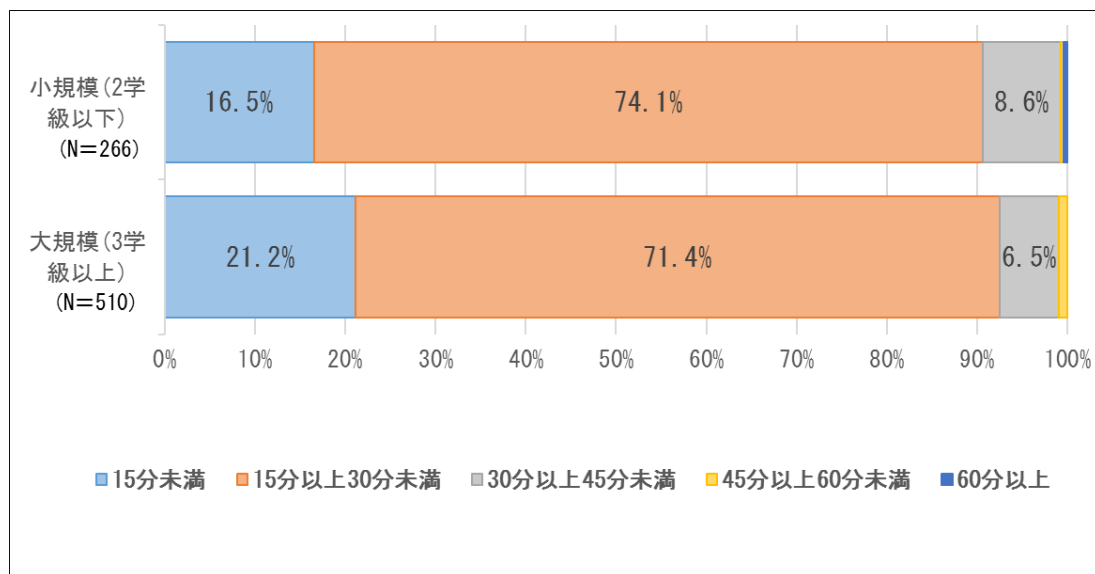
図表 6－19 中学生の通学にかかる時間の許容範囲（単純集計）（N＝784）

図表 6-20 によると、すべての地区で「15 分以上 30 分未満」と回答した比率が最も高くなった一方で、西条地区→東予地区→丹原・小松地区の順に、長い時間で回答する比率が高くなる傾向がみられました。



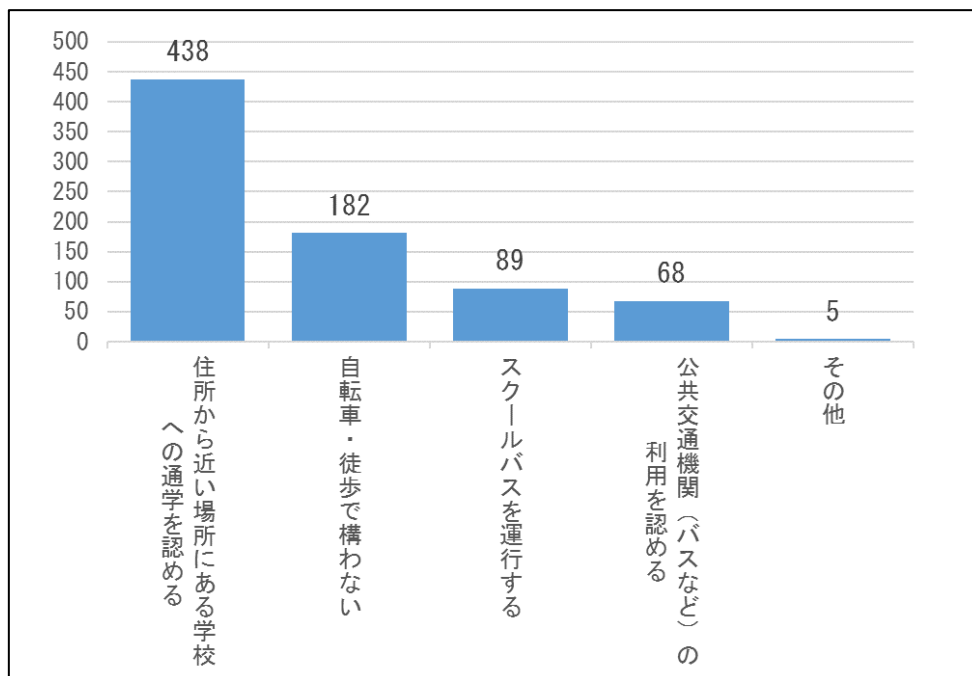
図表 6－20 中学生の通学にかかる時間の許容範囲（お住まいの地区別）

図表 6-21 によると、すべての中学校の規模で「15 分以上 30 分未満」と回答した比率が最も高くなり、次いで「15 分未満」と回答した比率が高くなりました。学校の規模が小さくなるにつれて、短い通学時間で回答する比率が高くなる傾向がみられました。

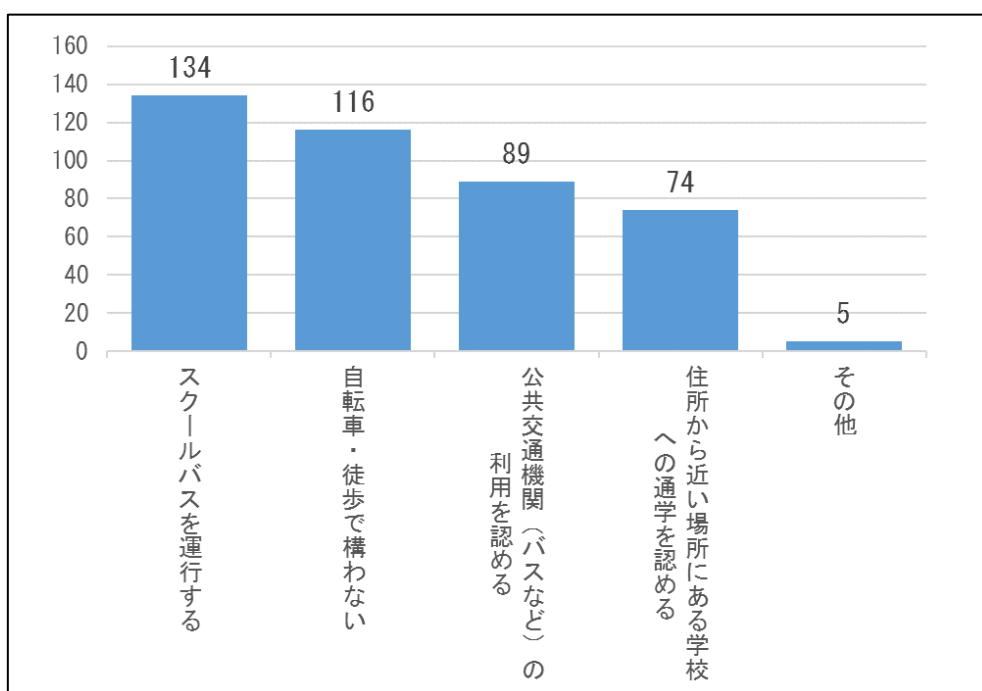


図表 6－21 中学生の通学にかかる時間の許容範囲（生徒を通学させる中学校の3年生規模別）

図表 6-22 によると、第 1 選択では「住所から近い場所にある学校への通学を認める」と回答した方が最も多くなり、次いで「自転車・徒歩で構わない」と回答した方が多くなりました。また、図表 6-23 によると、第 2 選択では「スクールバスを運行する」と回答した方が最も多くなり、次いで「自転車・徒歩で構わない」と回答した方が多くなりました。

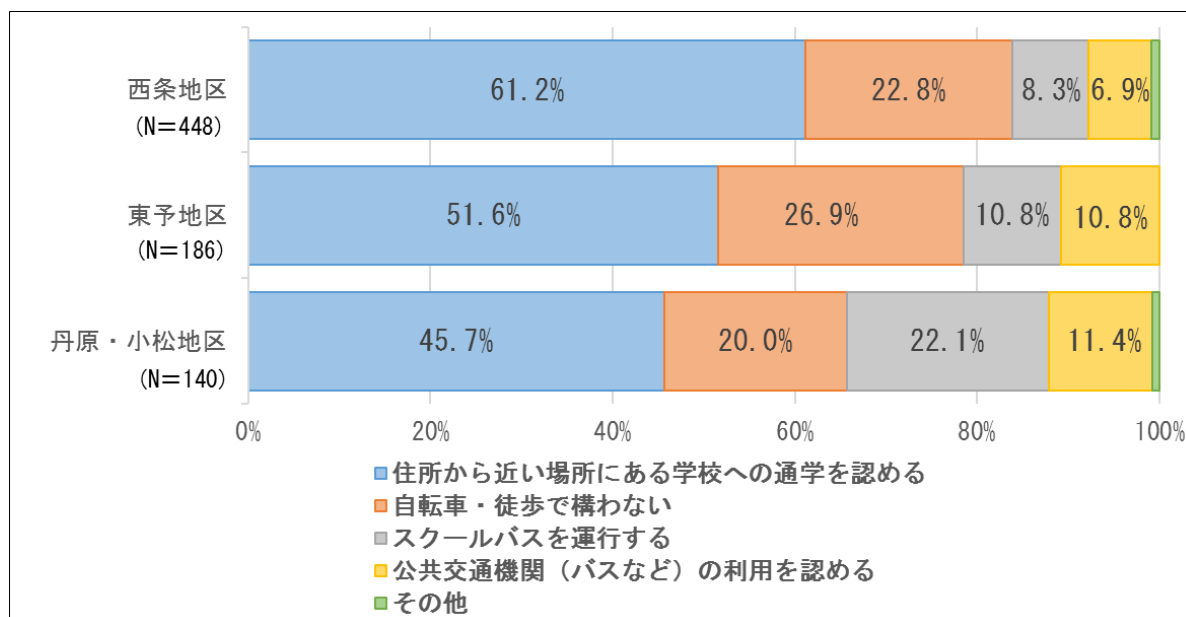


図表 6－22 図表 6－19 で回答した時間で通学するために必要だと思う配慮
(第 1 選択・単純集計) (N = 782)



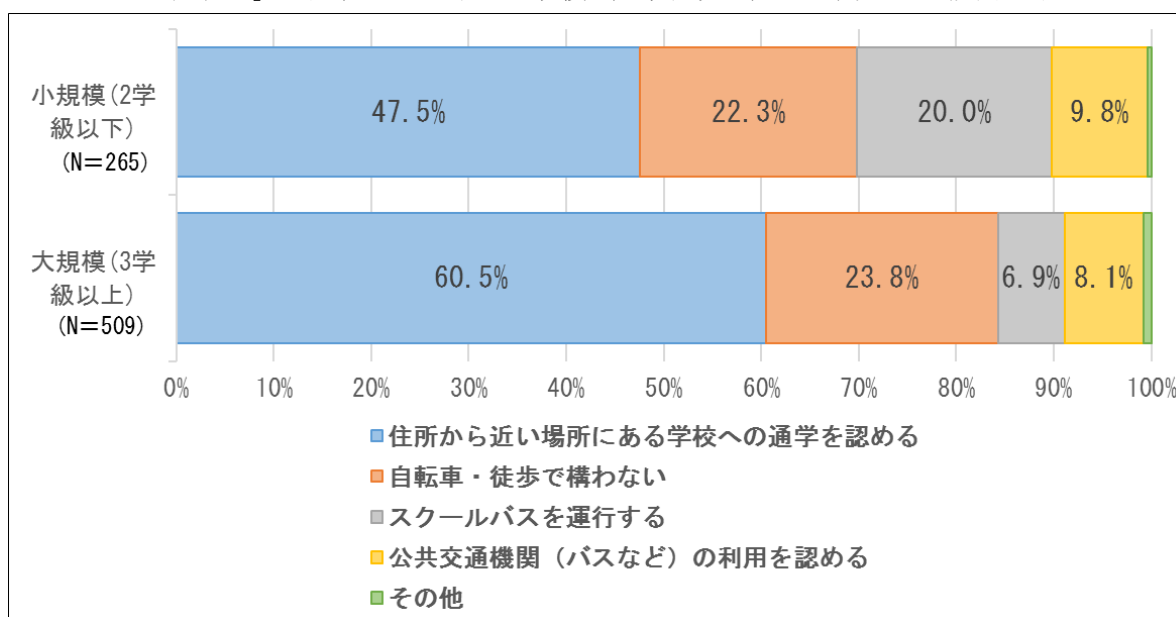
図表 6－23 図表 6－19 で回答した時間で通学するために必要だと思う配慮
(第 2 選択・単純集計) (N = 418)

図表 6-24 によると、すべての地区で「住所から近い場所にある学校への通学を認める」と回答した比率が最も高くなり、次いで「自転車・徒歩で構わない」と回答した比率が高くなりました。西条地区では「住所から近い場所にある学校への通学を認める」、東予地区では「自転車・徒歩で構わない」と回答した比率が他の地区より高くなる傾向がみられました。



図表 6-24 図表 6-19 で回答した時間で通学するために必要だと思う配慮
(お住まいの地区別)

図表 6-25 によると、すべての中学校の規模で「住所から近い場所にある学校への通学を認める」と回答した比率が最も高くなり、大規模（3 学級以上）のほうが「住所から近い場所にある学校への通学を認める」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。一方、小規模（2 学級以下）では「スクールバスを運行する」と回答した比率が大規模（3 学級以上）より高くなる傾向がみられました。



図表 6-25 図表 6-19 で回答した時間で通学するために必要だと思う配慮
(生徒を通学させる中学校の3年生規模別)

7 参考資料（アンケート用紙）

西条市の学校規模適正化に関するアンケート調査へのご協力をお願い (中学3年生 保護者用) ～みなさまのご意見をお聞かせください～

西条市では、令和2年度に実施した「西条市の教育に関するアンケート調査」において、将来的な子どもたちの教育環境の充実を図るためには、一定程度の児童数・学級数が必要であるとの回答が多い傾向がみられ、西条市総合教育会議において、人口減少・少子高齢化社会の進展を見据えた今後の教育環境のあり方について議論を進めてきました。

そこで、西条市の次代を担う子どもたちの将来的な学校教育環境の最適化を図ることを目的に、学校規模適正化に関するアンケート調査を実施することとしました。

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ですが、この調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和4年9月 西条市長 玉井 敏久 西条市教育長 伊藤 隆志

調 査 の 概 要

- 1 この調査用紙は、西条市立の中学校に3年生生徒が在学中である保護者の方を対象に配布しています。
 - 2 この調査票は、個人を特定できないようになっており、調査終了後は速やかに廃棄いたします。

日ごろ、感じていることや思っていることをそのままご記入ください。
 - 3 必ず保護者の方がご回答ください。
 - 4 ご記入後、「調査票」を返信用の封筒に入れて、9月29日(木曜日)までに生徒を通じて担任の先生へご提出ください。
 - 5 ご不明な点などがありましたら、下記の担当へお問い合わせください。
- ※本アンケートにつきましては、西条市の学校規模適正化検討の基礎資料として活用させていただきます。

令和2年度

「西条市の教育に関するアンケート調査」の結果は
こちらから



〒793-8601

西条市明屋敷164番地

西条市 経営戦略部 政策企画課

TEL : (0897) 56-5151 (内線2179)

E-mail : seisakukikaku@saijo-city.jp

西条市 教育委員会事務局 教育総務課

TEL : (0897) 56-5151 (内線5222)

E-mail : kyoikusomu@saijo-city.jp

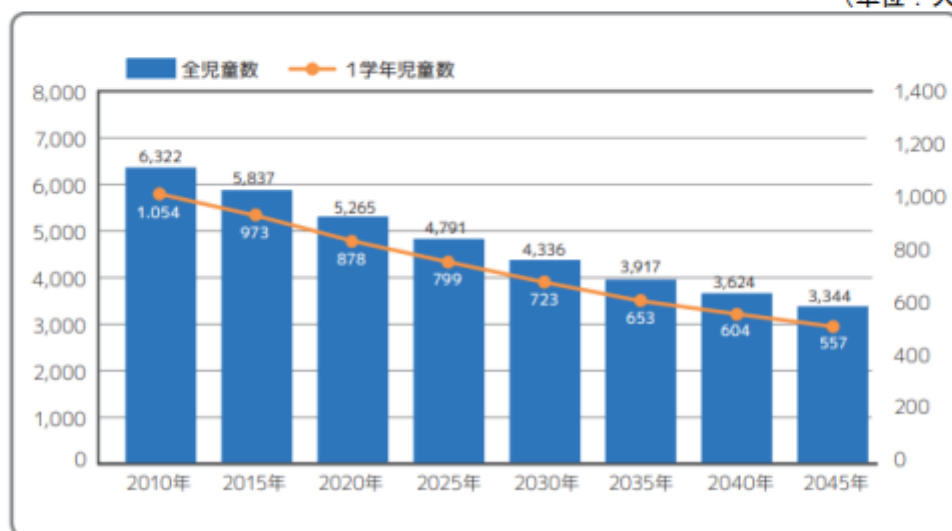
アンケート回答の参考に、ご一読ください。

西条市立小・中学校の児童・生徒数の推計について（第２期 西条市総合計画後基本計画（第２期西条市まち・ひと・しごと創生総合戦略）より抜粋）

（Ⅰ）小学校児童数の推計

西条市の小学校児童数は減少し続け、2010年時点で1学年あたり1,000人を超えていた児童数が2045年時点で557人と約半分まで減少します。

図１ 西条市の全小学校児童数（7～12歳）及び1学年児童数の推移
(単位：人)

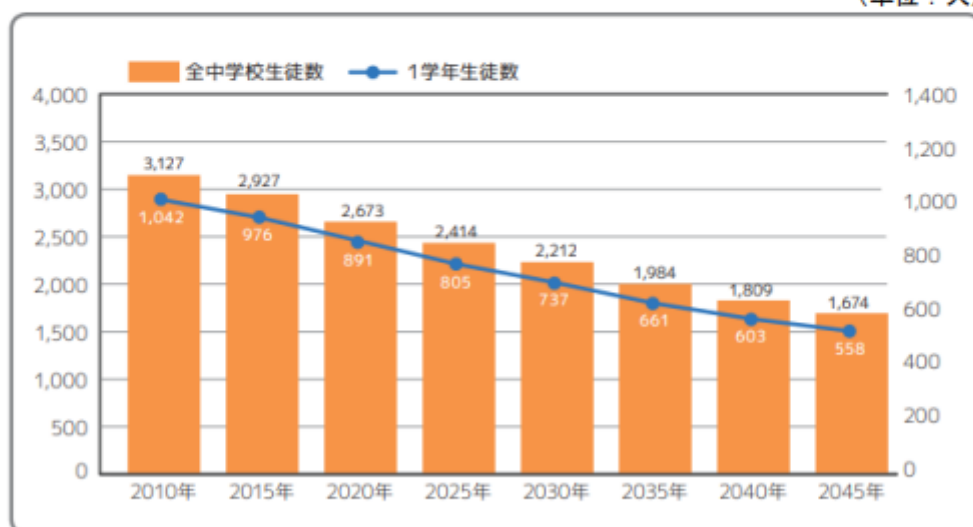


出典：2010年及び2015年国勢調査を参考に西条市自治政策研究所が作成

（Ⅱ）中学校生徒数の推計

西条市の中学校生徒数は減少し続け、2010年時点で1学年あたり1,000人を超えていた生徒数が、2045年時点で558人と小学校児童数と同様に約半分まで減少します。

図２ 西条市の全中学校生徒数（13～15歳）及び1学年生徒数の推移
(単位：人)



出典：2010年及び2015年国勢調査を参考に西条市自治政策研究所が作成

小学校においては、児童数 60 人（1 学年あたり 10 人）を基準とした場合、基準を下回る学校が 2045 年には 10 校まで増加します。また、中学校においては、生徒数 60 人（1 学年あたり 20 人）を基準とした場合、基準を下回る学校は 1 校のみですが、2045 年までに全小・中学校で児童・生徒数が減少します。

表1 西条市の小学校区別児童数および中学校区別生徒数の変化

(単位:人)

区分	学校名	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	増減 2045年-2010年
小 学 校	玉津	536	514	509	502	504	499	485	486	△50
	飯岡	304	343	326	283	226	184	197	206	△98
	西条	602	527	413	409	448	461	429	355	△247
	神拝	935	823	653	538	503	505	474	388	△547
	大町	575	575	557	500	454	391	366	369	△206
	神戸	206	192	188	176	150	131	115	116	△90
	禰瑞	71	80	86	78	55	40	41	46	△25
	橋	111	108	101	83	67	56	51	50	△61
	氷見	217	181	156	134	102	78	67	60	△157
	周布	194	179	159	143	128	104	88	77	△117
	吉井	111	111	131	154	119	89	89	101	△10
	多賀	314	287	248	223	194	174	156	137	△177
	壬生川	309	284	260	246	226	201	175	155	△154
	國安	218	191	187	163	151	142	128	123	△95
	吉岡	147	128	131	141	130	106	92	87	△60
	楠河	129	105	97	88	70	61	55	47	△82
	三芳	137	113	86	74	68	67	61	42	△95
	庄内	102	92	84	64	44	30	25	23	△79
	丹原	323	281	254	239	233	230	206	181	△142
	徳田	72	64	61	70	59	38	29	28	△44
	田野	122	101	77	68	61	53	44	35	△87
	中川	124	116	85	63	46	32	29	25	△99
	田滝	7	11	11	5	4	1	1	2	△5
	小松	345	340	306	266	235	197	187	175	△170
	石根	111	91	98	82	61	47	34	29	△82
中 学 校	西条東	410	410	414	399	376	347	329	331	△79
	西条西	204	188	173	160	135	100	81	76	△128
	西条南	400	356	358	337	307	273	236	224	△176
	西条北	698	686	573	457	420	426	433	392	△306
	東予東	450	434	393	376	358	303	263	235	△215
	東予西	199	171	160	155	148	136	120	106	△93
	河北	200	165	138	120	99	80	72	63	△137
	丹原東	263	245	207	187	179	165	149	128	△135
	丹原西	59	59	50	36	28	19	14	13	△46
	小松	244	213	206	187	162	136	113	105	△139

◆ 次のページからアンケート調査の設問になります ◆

西条市の学校規模適正化に関するアンケート調査票

最初に、回答されるあなたご自身についておたずねします。

※ あてはまるものを1つ選び数字を○で囲んでください。

問1 あなたの性別を教えてください。（*性別に関する設問の回答は任意です。）

- | | | |
|------|------|---------|
| ① 男性 | ② 女性 | ③ 回答しない |
|------|------|---------|

問2 あなたの年齢を教えてください。

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| ① 29歳以下 | ② 30～34歳 | ③ 35～39歳 | ④ 40～44歳 |
| ⑤ 45～49歳 | ⑥ 50～54歳 | ⑦ 55～59歳 | ⑧ 60～64歳 |
| ⑨ 65～69歳 | ⑩ 70歳以上 | | |

問3 あなたが居住されている小学校区を教えてください。

- | | | | | |
|------|------|-------|------|------|
| ① 玉津 | ② 飯岡 | ③ 西条 | ④ 神拝 | ⑤ 大町 |
| ⑥ 神戸 | ⑦ 禎瑞 | ⑧ 橘 | ⑨ 氷見 | ⑩ 周布 |
| ⑪ 吉井 | ⑫ 多賀 | ⑬ 壬生川 | ⑭ 国安 | ⑮ 吉岡 |
| ⑯ 庄内 | ⑰ 三芳 | ⑱ 楠河 | ⑲ 丹原 | ⑳ 徳田 |
| ㉑ 田野 | ㉒ 中川 | ㉓ 田滝 | ㉔ 小松 | ㉕ 石根 |

問4 あなたのお子様の性別を教えてください。（*性別に関する設問の回答は任意です。）

- | | | |
|------|------|---------|
| ① 男性 | ② 女性 | ③ 回答しない |
|------|------|---------|

以下をご一読のうえ、続く設問にお答えください。

◇小・中学校の学級数については、標準とする学級数が下表のとおり法令で定められています。

	小学校	中学校
標準とする学級数	1学年あたり2～3学級 (1校あたり12～18学級)	1学年あたり4～6学級 (1校あたり12～18学級)

・児童生徒数が著しく少ない場合においては、複数の学級を1つの学級とする「※複式学級」を編制することとなります。

◇西条市においては、小学校では8割、中学校では7割の学校が、標準とする学級数を下回る小規模校となっています。

※ 複式学級とは

2つの異なる学年を1学級として編制して1名の教員が受け持つ方式。

授業の進め方によっては相互に学び合う姿勢が身に付く一方で、教員が授業に関わる時間が複数の学年に分散するため、きめ細かな指導をする時間が確保しにくいことが特徴です。

愛媛県教育委員会では、中学校において引き続き2学年の生徒数の合計が8人以下になった場合に複式学級を設置することとされています。(愛媛県では平成17年度から中学校の複式学級を解消しています。)

↓ここからが設問になります。↓

問5 西条市内の今の中学校数や学校規模についてお聞きします。

①～②の項目について、あなたの考え方に近い選択肢を選んでください。

項 目		選 択 肢				
		そう 思う	少し 思う	どちら でも ない	あまり 思 わ な い	そ う 思 わ な い
(記入例) ○○○について○○○と感じる	➡	5	4	3	2	1
こ こ か ら 下 が 設 問 で す						
① 小さい規模の中学校が多いと感じる	➡	5	4	3	2	1
② 20年前に比べると子どもの数が少なくなったと感じる	➡	5	4	3	2	1
③ その他 ()						

問6 小規模校(1校あたり11学級以下の中学校)の良さについて、あてはまるものを順番に選択してください。

※第二選択欄は該当する回答がある場合のみ記入してください。

- ① 子どもたちの人間関係が深まりやすい
- ② 子ども一人ひとりの活躍の機会が増える
- ③ 教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい
- ④ 学年を超えた教育・交流活動の機会が多くなりやすい
- ⑤ 機器など授業で使用する教具が一人ひとりに行き渡りやすい
- ⑥ 学校・地域・保護者が一体となった活動がしやすい
- ⑦ その他 ()

第一選択欄
第二選択欄

問7 小規模校（1校あたり11学級以下の中学校）の課題について、あてはまるものを
順番に選択してください。

※第二選択欄は該当する回答がある場合のみ記入してください。

- ① 教員との距離が近く、頼りがちになる
- ② 多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい
- ③ 球技や合唱のような集団活動や学校行事に制約が生じやすい
- ④ クラブ活動や部活動の選択肢が少なくなる
- ⑤ クラス替えができないため、人間関係が固定化しやすい
- ⑥ 男女比のかたよりが生じやすい
- ⑦ 先生が少ないため、専門教科以外の先生に教わる可能性がある
- ⑧ PTA 活動などで保護者 1 人あたりの役割や作業など負担が大きくなりやすい
- ⑨ その他（ ）

第一選擇欄
第二選擇欄

問8 中学校では、1学年あたりどの程度の学級数が適切だと思いますか。

※選択した番号を1つ選択欄に記入してください。

- ① 1学級 ② 2学級 ③ 3学級
④ 4学級 ⑤ 5学級以上
⑥ その他（ ）

選擇欄

問9 中学校では、1学級あたりどの程度の生徒数が適切だと思いますか。

※選択した番号を1つ選択欄に記入してください。

- ① 10人以下 ② 11～20人 ③ 21～25人
④ 26～30人 ⑤ 31～35人 ⑥ 36～40人
⑦ その他（ ）

選擇欄

続いての設問は、問 10 の選択によって問 11 または問 12 にお進みください

問 10 将来の子どもたちが学びやすい学校規模とするために、西条市の中学校の再編はどのようにしていくことが望ましいと思いますか。

※選択した番号を 1 つ選択欄に記入してください。

- ① 今後、さらに生徒が減少しても今の学校配置が望ましい

⇒問 11 にお進みください

- ② 今の学校配置が望ましいが、学校再編を進めるのはやむを得ない

⇒問 12 にお進みください

- ③ 市全体を対象とした計画を立て、積極的に学校再編を進めるべき

⇒問 12 にお進みください

選択欄

問 11 問 10 で①を選択した方にお聞きします。問 10 で①を選択した理由として、あてはまるものを順番に選択してください。

※第二選択欄は該当する回答がある場合のみ記入してください。

- ① 学校は地域の活動拠点であるから
② 地域と近く、地域の人材や自然・歴史を活かした教育活動ができるから
③ 地域から学校がなくなるのは寂しいから
④ 今の教育環境を大切にしたいから
⑤ その他（ ）

第一選択欄

第二選択欄

問 12 問 10 で②または③を選択した方にお聞きします。問 10 で②または③を選択した理由として、あてはまるものを順番に選択してください。

※第二選択欄は該当する回答がある場合のみ記入してください。

- ① 複式学級の解消やクラス替えができるから
② 多くの友達や教員の多様な意見や考えに触れることができるから
③ 適正に教員が配置され、専門的な授業が受けられるから
④ 進学・就職の際に人数のギャップによる不安感が少なくなるから
⑤ 学校再編により教育予算が効率的に活用できるから
⑥ その他（ ）

第一選択欄

第二選択欄

またここからの設問は、すべての方におたずねします

問 13 学校再編を進めるには、どのような点に配慮すべきだと思いますか。あてはまるものを順番に選択してください。

※第二選択欄は該当する回答がある場合のみ記入してください。

- ① 子どもたちの通学（時間・距離・方法）と安全確保
- ② 子どもたちの人間関係づくりや心身の負担軽減（ケア）
- ③ 9年間を見通した小中一貫教育の実施
- ④ 再編する学校の子どもたち同士の事前交流
- ⑤ 保育所や幼稚園、学童保育など子育て機能を有する施設を学校と一体的に整備
- ⑥ 学校再編で学校が空き施設になった場合の有効活用策
- ⑦ 避難所機能の充実
- ⑧ 学校を地域の拠点とし、その周辺に公共施設や生活に必要なサービス機能の充実
- ⑨ 保護者・地域団体・地域住民との十分な協議
- ⑩ その他（ ）

第一選択欄
第二選択欄

問 14 本調査票を持ち帰ったお子様の通学時間を選択してください。

※選択した番号を1つ選択欄に記入してください。

- ① 15分未満
- ② 15分以上 30分未満
- ③ 30分以上 45分未満
- ④ 45分以上 60分未満
- ⑤ 60分以上

選択欄

問 15 本調査票を持ち帰ったお子様の通学方法を選択してください。

※選択した番号を1つ選択欄に記入してください。

- ① 徒歩
- ② 自転車
- ③ 保護者送迎
- ④ その他（ ）

選択欄

問 16 中学生の通学時間は、どのくらいの時間までが許容範囲だと思いますか。

※選択した番号を1つ選択欄に記入してください。

- ① 15 分未満 ② 15 分以上 30 分未満
③ 30 分以上 45 分未満 ④ 45 分以上 60 分未満
⑤ 60 分以上

選擇欄

問 17 「問 16」で答えいただいた通学時間の範囲で子どもたちが通学するために、どのような配慮が必要だと思いますか。

※第二選択欄は該当する回答がある場合のみ記入してください。

- ① 住所から近い場所にある学校への通学を認める
- ② 公共交通機関（バスなど）の利用を認める
- ③ スクールバスを運行する
- ④ 自転車・徒歩で構わない
- ⑤ その他（ ）

第一選擇欄
第二選擇欄

問 18 将来的な人口減少を見据えた学校規模適正化について、ご意見をご自由にお書きください。

アンケートは以上です。

ご協力ありがとうございました。